

大阪市立自然史博物館館報

32

(平成18年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成20年3月31日発行

目 次

市民参加による特別展	1
指定管理者制度の導入にあたって	2
展 覧 事 業	3
調 査 研 究 事 業	9
資料収集保管事業	18
普 及 教 育 事 業	28
そ の 他 の 事 業	39
庶 務	40

市民参加による特別展

館長 山西良平

昭和49年に大阪市立自然史博物館として当地に開館して以来、毎年開催している特別展は今年で35回を数える。特別展は博物館の調査研究や資料収集活動の成果を市民に伝えるよい機会である。当館の場合、それらは自然史科学を掘り下げるテーマ展示、収蔵コレクションをベースにした分類展示、そして地元の自然をとりあげて特集する地域自然誌展示などに大別することができる。地域自然誌展示としては、これまでに和泉山脈、北摂、河内平野、大阪湾、淀川、琵琶湖などを取り上げてきた。

なお、平成13年に設けた花と緑と自然の情報センター内の「大阪の自然誌」展示室は、地元の自然を山地、丘陵、平野、川、海に分けて具体的に紹介した常設の地域自然誌展示室である。

当館では数年前から、膝元に位置しながら長らく「きたない」という言葉に括り捨てられていた大和川に着目した展覧会「大和川の自然」を開催することとし、それに向けて流域の自然の調査活動に関連分野の学芸員が総力を挙げて取り組んできた。その結果、さまざまな生物の記録を中心に貴重な成果が得られたが、特筆すべきはその過程である。この特別展に向けて、学芸員が主導し、博物館友の会会員を中心とする市民150人以上が参加する現地調査グループ（大和川水系調査グループ＝“プロジェクトY”）が組織された。グループは「水質」、「甲虫」、「カブトエビ」、「貝」、「魚」、「鳥」、「哺乳類」、「植物」などテーマごとに合計14の班に編成され、各班による調査は4年間（水質班は5年間）にわたって繰り返された。そこでは学芸員による事前研修とそれに基づくメンバーの自発的な現地調査という新しい手法も編み出された。協力を賜った専門研究者の方々のご指導も大きな威力を発揮した。その結果、それぞれの分野・テーマにおいて水系がくまなく調べあげられ、おびただしいデータが実物標本と共に集積し、その成果物として流域を網羅した50余枚もの水質・生物分布図が作成された。支流も含めたひとつの水系でこれだけ密度の高い地域自然の調査がなされたのは空前のことではないだろうか？分布図は展示全体をひとつにまとめる要としての役割を果たすことになった。展覧会そのものの準備に当たっても、“プロジェクトY”メンバー、NPO法人大阪自然史センター、国土交通省大和川河川事務所、財団法人河川環境管理財団など各方面からさまざまなご支援を賜った。

特別展「大和川の自然」はこのようにして平成18年夏に第35回特別展として開催され、博物館関係者、河川関係者などの間で好評であった。ただ、奈良県下を含めた流域の方々に遍くご覧いただくには至らず、広報面でのむずかしさも感じさせられた。

この準備過程で蓄積された市民参加型博物館活動の新たなノウハウは、無形の資料として今後の博物館の事業に引き継がれていくであろう。次の企画がすでに胎動している。

指定管理者制度の導入にあたって

館長 山西良平

当館においては本年4月1日より指定管理者制度が導入され、財団法人大阪市文化財協会による管理・運営が始まりました。

この制度は地方自治法第244条の2第3項「普通地方公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、法人その他の団体であって当該普通地方公共団体が指定するもの（指定管理者）に、当該公の施設の管理を行わせることができる」との規定に基づくものです。

昨年、大阪市の方針に基づき当館にもこの制度が導入されることになり、そのために9月の市会において大阪市立自然史博物館条例が改正され、以後、指定管理者選定の手続きが進められました。この手続きは条例に則り、外部の有識者で構成される選定委員会が、予め教育委員会が指名する指定管理予定団体に対して、指定管理者としての基準を満たしているかどうかの判定をするという方法で行われました。その結果、予定団体であった財団法人大阪市文化財協会が当館の指定管理者として適当であると判断され、選定結果は今年3月の議会で承認の議決を受けました。非公募による選定であるという理由によって、指定管理の期間は短く、2年間と定められました。

これまで大阪市が直接的に管理・運営を行ってきた当館に対して、今後は財団法人大阪市文化財協会がそれを代行します。このことによって当館は大阪市の組織としては廃止されましたが、設置者が大阪市であり、博物館の建物や展示室、収蔵資料などが大阪市の所有であることには変わりありません。また館長・学芸員についても全員が大阪市から大阪市文化財協会に、「公益法人等への職員の派遣等に関する条例」に基づいて派遣されるという形で、今までどおり自然史博物館において活動を継続しますから、当面、指定管理者制度の導入によって博物館の態様が大きく変化することはありません。

指定管理者制度は、「住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図ること」を目的としています（大阪市による「公の施設の指定管理者の指定の手続きに関する指針」）。私たちとしては、昨年夏に策定した大阪市立自然史博物館の「ミッションと中期目標」並びに「課題」（<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2/about/foreword.html>）に沿って、今後も博物館活動の向上と経営の改善に努めていきたいと考えています。

2年間という指定管理期間経過後の問題にも触れておきます。大阪市には長年にわたって多様な博物館・美術館を設置しその充実を図ることで、国内においては一都市として傑出した博物館群を築き上げてきました。今年2月に発表された「教育長改革マニフェスト（教育委員会事務局改革実施方針）」においては、「博物館群については、相互の連携強化と総合的な事業展開、効率的な運営を図るため、一体的に管理運営されることが最適である」とされ、「今後、さらなる管理・運営の一元化を図るには、監理団体の統合を進める手法とともに、国において先行実施されている独立行政法人化が有効な選択肢と考えられるが、現行の地方独立行政法人法では、教育委員会が所管する施設はその対象施設に含まれない。そこで、法改正や政令で対象施設となることを念頭に、制度適用の有効性や具体的以降方法等について、平成19年度末を目標に一定の結論を得る」という方向性が打ち出されているところです。

当博物館といたしましては、これまで培ってきた市民の皆様方、当館友の会や特定非営利活動法人大阪自然史センターをはじめとする自然に関わって活動する諸団体の方々、行政・学校・大学・博物館等の関係機関の方々等との連携を何よりも大切にしながら、この激変の時代を乗り越えていきたいと考えております。今後ともよろしくご支援のほどをお願い申し上げます。（平成18年4月）

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。平成13年4月に「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」がオープンしたことで、常設展示は、旧来の博物館建物（以下本館）だけでなく、情報センター1階にも増設され、特別展示は情報センター2階のネイチャーホールで開催されることとなった。

I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかわかってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生命の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えている。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来「普及センター」に開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成18年度には、下記の常設展示の更改・補修等を行っ

た。

■ 旧特別展示室の第5展示室への改装（部分）

情報センター開設に引き続いて、本館常設展示の更新が計画されていたが、諸般の事情により、計画通りの実行に至っていない。本館の常設展示はかなりの部分が30年以上経過しており、劣化が著しく、展示手法の古さも目立っている。また「大阪の自然誌」展示室の展示内容は、本館の展示更新と一体の計画で検討されたため、現状ではその一部が本館展示室の内容と重複しており、早急な対策を必要としている。平成17年度から、当初計画を見直した展示室に基づき、一部展示室の更新が行われている。

平成18年度には、旧特別展示室を改修して、新しく第5展示室（部分）とした。本展示室は常設展示の締めくくりであり、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらししているのかを、展示している。17年度には、身近な里山を題材に、以下の展示コーナーを新設した。

- (1)「さまざまな環境を行き来する生き物」
- (2)「さらに遠くへ旅する生き物」
- (3)「つながって成り立つ自然」
- (4)「人のくらしとの関わり」

これらの展示コーナーでは、動物フィギュアが里山を模したステージを動き回ったり、観覧者がタヌキやモクズガニになった気分を味わえたり、体験型シュミレーションゲームがあるなど、楽しく学んでもらえるように工夫している。

なお引き続き平成19年度には、旧特別展示室の残りの部分と、隣接する第4展示室の改修を行い、新第5展示室の展示全体を完成させる予定である。

II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌の紹介や、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。平成13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 当館主催の特別展

■第35回特別展「大和川の自然 一きたない川?にも
こんないるでー」

大和川流域では古くから水田が拓かれ、街が栄え、人の手による付け替えや流路変更も頻繁に行われてきた。このように人々の生活と深く結びついているにかかわらず、大和川は一般に「汚い川」としてのイメージばかりが強く、そこにどのような生きものが暮らしているかは十分にはわかっていなかった。そこで、自然史博物館と自然史博物館友の会「プロジェクトY」では、150名を超える市民と共に5年以上かけて大和川の生きものと環境について調査を行ってきた。プロジェクトYでの調査成果を中心に、大和川の自然環境と身近な自然を知る機会とする特別展を実施した。

- 会 期：平成18年7月29日(土)～9月18日(月・祝)
- 会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター2階)
- 主 催：大阪市立自然史博物館、自然史博物館友の会プロジェクトY、NPO 法人大阪自然史センター、大和川自然ふれあい実行委員会
- 後 援：国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所、環境省近畿地方環境事務所、財団法人河川環境管理財団、大阪府、奈良県、日本陸水学会、日本魚類学会
- 観覧料：大人400円、高校生・大学生 300円。団体割引あり。本館は別料金。中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方は無料。
- 展示点数

標本：哺乳類9点(巣を含む)、鳥類31点、両生類26点、魚類58点、甲殻類27点、貝類約300点、昆虫約4800点、植物22点、岩石12点など計約5300点



図1. 特別展「大和川の自然」の展示

両生類3種、魚類約20種、甲殻類6種、貝類9種、植物(水草)6種など計約50種、約180点

説明パネル・写真など：約380枚

●展示の構成

- 1 大和川ってどんな川?
- 2 こんないるで大和川
- 3 大和川の水と産業
- 4 大和川の生物を脅かす要因
- 5 大和川水系の生物多様性と未来

●関連行事

子ども向けワークショップ

特別展を未就学児や小学生にも楽しみ内容を理解していただくこと、特定非営利活動法人大阪自然史センターおよび財団法人河川環境管理財団との共催で、子ども向けワークショップを特別展会期前および会期中の土曜日・日曜日に開催した。ワークショップで作成した作品は、参加者の持ち帰りのほか、会場内での展示を行った。

「川をつくろう」

開催日：7月16日(日)・17日(月・祝)

会 場：大阪市立自然史博物館 玄関前ポーチ

参加者：500名

「いきものぬりえ」

開催日：7月29日(土)・30日(日)、

8月5日(土)・6日(日)

会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール

(特別展会場内)

参加者：212名



図2. 学芸員による展示スポットガイドの様子

「ぶらぶら大和川」

開催日：8月12日（土）・13日（日）・19日（土）・
20日（日）・26日（土）・27日（日）

会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
（特別展会場内）

参加者：373名

写真展「大和川の今・昔」

特別展「大和川の自然一きたない川？にも こんなにいるでー」関連企画として、大阪市所蔵および博物館友の会会員から寄せられた大和川水系の昔の写真を展示し、過去から現在への大和川の移り変わりを写真を通じて考えた。

会 期：7月29日（土）～9月18日（月・祝）

会 場：自然史博物館本館 特別展示室

特別展記念講演会「大和川水系にすむ絶滅危惧生物とその現状」

生きものが少ないと考えられがちな大和川だが、中には全国的に絶滅が危惧されているような生きものも見ついている。大和川にすむ魚、貝、植物、昆虫などの絶滅危惧生物の現状を紹介し、その全国での状況や絶滅危惧に到る過程、河川環境の問題点などについて日本で第一線の研究者に講演していただいた。

日 時：8月20日（日） 13時30分～17時

場 所：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「メダカは生き残れるのか？」

環境破壊・外来種・遺伝子かく乱

瀬能 宏

（神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員）

「貝類の生息環境とその現状」

近藤高貴（大阪教育大学教授）

「近畿地方の水辺の植物－現状とその保全」

角野康郎（神戸大学理学部教授）

「川虫から見た大和川」

谷田一三（大阪府立大学理学部教授）

参加者：119名

自然史オープンセミナー

「大和川：河口から源流まで」

日 時：7月1日（土） 15時～16時30分

会 場：自然史博物館 集会室

講 師：中条武司（第四紀研究室）

参加者：36名

「大和川の生きものの分布と地史・地学的関係」

日 時：8月5日（土） 15時～17時30分

会 場：自然史博物館 講堂

講 師：和田 岳（動物研究室）、初宿成彦（昆虫研究室）、
石井久夫（第四紀研究室）、中条武司（第四紀研究室）

参加者：80名

「大和川の生きものの分布と人間活動の影響」

日 時：9月2日（土） 13時30分～16時

場 所：自然史博物館 集会室

話題提供：山西良平（自然史博物館館長）、金沢 至（昆虫研究室）、波戸岡清峰（動物研究室）

参加者：60名

学芸員による特別展スポットガイド

日 時：7月29日（土）、8月12日（土）、8月19日（土）、
8月26日（土）、9月9日（土）、9月16日（土）

7月・8月は16時～、9月は13時30分～。

場 所：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
（花と緑と自然の情報センター 2階）

参加者：115名

テーマ別自然観察会「川底の甲虫－ヒメドロムシ」

日 時：8月6日（日） 終日

場 所：河内長野市石川上流

参加者：39名



図3. 特別展での子ども向けワークショップ「いきものぬりえ」の様子

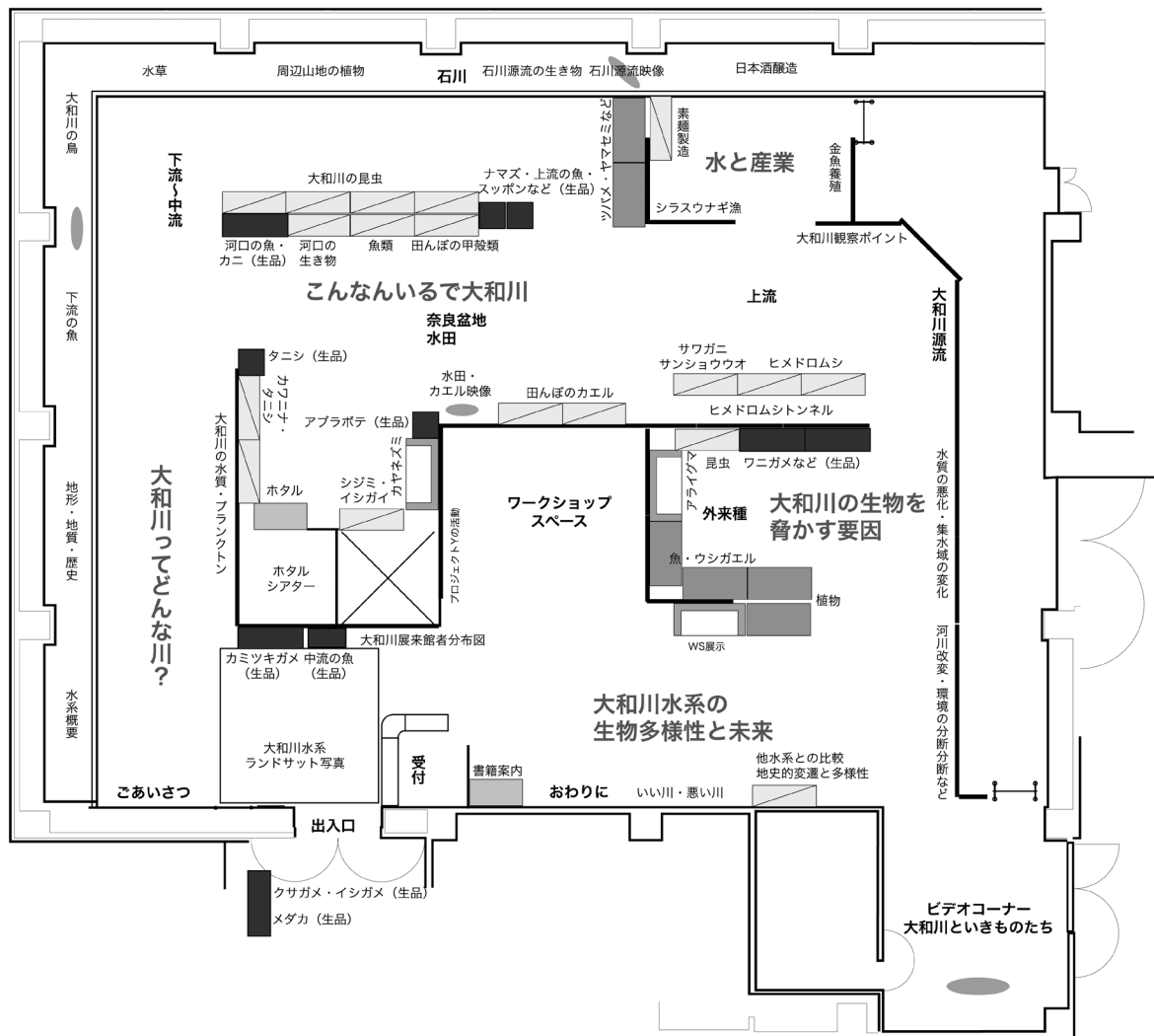


図4. 「大和川の自然 —きたない川?にもこんないるでー」配置図

ドキドキ子ども自然史ウォッチング「学芸員体験コース」
 日 時：8月23日(水)～25日(金)
 場 所：野外(河内長野市石川上流)及び自然史博物館
 参加者：7名

教員・観察会指導者向け支援プログラム

「特別展「大和川の自然」を通して環境学習を考える」
 日 時：8月2日(水) 13時30分～16時30分
 会 場：集会室およびネイチャーホール
 共 催：大阪府高校生物教育研究会
 参加者：29名

科学映画会「大和川と生きものたち」(上映時間22分)
 日 時：7・8月中の土・日曜日、祝日。

ただし8月5日(土)、20日(日)催し物のため実施せず。

土曜日：7月1日、8日、15日は午後2時からの1回上映。7月22日、29日、8月12日、19日、26日は午後2時、午後4時30分からの2回上映。

日曜日・祝日：7月2日、9日、16日、17日は午前11時、午後2時からの2回上映。7月23日、30日、8月6日、13日、27日は午前11時、午後2時、午後4時30分からの3回上映。

場 所：自然史博物館 講堂

ただし、7月1日(土)は集会室

参加者：1337名

Ⅲ. 特別陳列

■パネル展「大和川の自然環境をもっと知ろう！考えよう！」

大和川の自然環境や水質の変遷、大和川水環境協議会の取り組みなどについて紹介した。

期 間：4月29日(土)～6月11日(日)

場 所：自然史博物館本館 特別展示室

主 催：大和川水環境協議会

共 催：大阪市立自然史博物館

Ⅳ. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

■大阪市立東洋陶磁美術館企画展「牡丹一花咲く東洋のやきもの」への協力

牡丹をモチーフとした陶磁器の企画展に際し、本館所蔵のボタンのさく葉標本を展示した。期間は平成18年4月4日(火)～7月23日(日)。

■「出張！自然史博物館—大和川の自然—」

夏の特別展「大和川の自然」の関連企画として、大阪市内の図書館で「出張！自然史博物館—大和川の自然—」を開催した。

・大阪市立住之江図書館

会 期：4月1日(土)～5月30日(火)

・大阪市立中央図書館

会 期：5月1日(月)～21日(日)

・大阪市立東住吉図書館

会 期：5月1日(月)～6月29日(木)

・大阪市立阿倍野図書館

会 期：7月1日(土)～8月30日(水)

・大阪市立住吉図書館

会 期：7月1日(土)～8月30日(水)

・大阪市立城東図書館

会 期：7月1日(土)～8月30日(水)

関連して、以下の3会場で講演会を開催した。

・大阪市立中央図書館

「大和川ってどんな川？—歴史の変遷から生き物まで—」

日 時：5月20日(土) 午後2時～4時

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室

参加者：138名

主 催：大阪市立中央図書館・大阪市立自然史博物館

・大阪市立住吉図書館

日 時：8月2日(水) 午後3時～4時

参加者：10名

・大阪市立阿倍野図書館

日 時：8月4日(金) 午後2時～3時

参加者：16名

Ⅴ. 展示関係の出版物・リーフレット・ビデオ

■常設展解説書

●ミニガイド No.22 「大阪のハンミョウ」

一般市民向け、A5横版、全27ページ(内カラー6ページ)、平成19年3月発行。500円。

■特別展解説書

●第35回特別展「大和川の自然—きたない川？にも こんなんいるで—」解説書

一般市民向け、B5縦版、本文73ページ、図版4ページ、平成18年7月29日発行。800円。

Ⅵ. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっくクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中 正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年(小学1～3年生)向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日用に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

Ⅶ. その他

(1) 開館時間延長

今年度10月より、3月から10月までの8ヶ月間の開館時間を30分延長し、午後5時閉館とした（入館は4時30分まで）。11月から2月までは、従来通り午後4時30分閉館（入館は4時まで）。

(2) 夏期開館時間延長

夏期の学校休業期間中の土・日曜日の開館時間を延長し、午後6時閉館（入館は5時30分まで）とした。

(3) 「関西文化の日」の11月18日（土）ならびに19日（日）を無料開放とした。

調査研究事業

当館の四つの事業(展覧・調査研究・資料収集保管・普及教育)に、学芸課に所属する学芸員それぞれが、等しく取り組んでいる。これらの四事業を別々のものとしてではなく、互に関連したものにするためには、その根底に調査研究が位置づけられなければならない。本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるからである。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長	山西良平 (Ryohei YAMANISHI)	
動物研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆虫研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	主任学芸員
	初宿成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植物研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	学芸員
	内貴章世 (Akiyo NAIKI)	学芸員
	志賀 隆 (Takashi SHIGA)	学芸員
地史研究室	樽野博幸 (Hiroyuki TARUNO)	学芸課長
	川端清司 (Kiyoshi KAWABATA)	研究副主幹
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	学芸員
第四紀研究室	石井久夫 (Hisao ISHII)	主任学芸員
	石井陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成19年3月31日現在

II. 個別調査研究

■山西良平 (館長)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 日本の干潟の多毛類ファウナの調査
- (3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査
- (3) 大和川流域の淡水魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪府下の果実食性鳥類と果実との関係についての研究

■石田 惣 (動物研究室)

- (1) アッキガイ類、ムカデガイ類などの軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイビングとその活用
- (4) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) トガリアメンボの分布拡大の調査

■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石の研究 (遺跡の昆虫遺体も含む)
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究 (年次変動と生活史の解明を中心に)
- (4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■佐久間大輔 (植物研究室)

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
- (3) 里山環境の歴史的発達過程
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制
- (5) 博物館情報システムの構築

■内貴章世 (植物研究室)

- (1) アリドオン属 (アカネ科) の分類学的研究および繁殖生態学的研究
- (2) 異型花柱性の進化に関する研究
- (3) サツマイナモリの集団遺伝学的研究
- (4) ルリミノキ属 (アカネ科) の分類学的研究および高次倍数化に関する研究

■志賀 隆（植物研究室）

- (1) コウホネ属（スイレン科）の分類学および生物地理学的研究
- (2) 植物の雑種形成および雑種分化に関する研究
- (3) 水生植物の保全に関する研究
- (4) 水湿地の植物相に関する研究

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新—更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放射虫化石に関する研究
- (3) 南アルプスの四万十帯・白亜系の構造発達史に関する研究
- (4) 現生放射虫に関する研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) 化石および現生球果の分類学的研究

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) 大阪層群の層序に関する研究（泉南・泉北丘陵を対象に）

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成・浅海成堆積物の堆積過程に関する研究
- (2) 日本海形成初期の堆積盆発達過程に関する研究
- (3) 沿岸域の微地形発達と堆積作用に関する研究
- (4) 大和川水系の水質や環境に関する研究

III. 研究業績の公表

■当館より発行された刊物

*は館外研究者. [No.] は当館業績番号

自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第6号 2007年3月31日発行 14ページ

大阪湾海岸生物研究会：大阪湾南東部の岩礁海岸生物相—2001～2005年の調査結果— 93-106. [No. 398]

大阪市立自然史博物館研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第61号 2007年3月31日発行 74+vi ページ

山崎一夫：大阪市内で発見された注目すべき蛾類 —とくに里山生息種と亜熱帯系種について— 1-13. [No.399]

Rikio MATSUMOTO, Hideki FUKUSHIMA*, Kentaro MORIMOTO* : Discovery of Sapygidae (Hymenoptera) in Japan. 15-18. [No.400] (英文)

益田晴恵*・中条武司・李曉東*・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ水質班：大和川水系の水質と富栄養化の状態に関する調査報告（特集：大和川の自然1として）。21-51. [No.401]

金山敦*・木邑聡美*・吉成暁*・古澤昭人*・山西良平・中条武司：大和川水系のプランクトンについて —2004～2005年の調査結果から—（特集：大和川の自然1として）。53-74. [No.402]

■収蔵資料目録の発行

大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第39集

竹之内 孝一 編集

「吉良哲明氏蒐集による日本及びその周辺の高産貝類—斧足類・掘足類—」

博物館収蔵資料目録第33集（2001年刊行）吉良哲明氏蒐集による高産貝類—腹足類—の続編にあたるものである。2007年3月31日発行 B5版42ページ。

■研究室別報文一覧

当館学芸員以外の共著者には氏名に*を付した。大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付し、シリーズ名は省略した。

【館長】

山西良平 (2007. 1) 特集：指定管理者制度導入の現場から直営から指定管理へ—大阪市立自然史博物館の場合—。全科協ニュース 37 (1)：1-3.

大阪湾海岸生物研究会 (山西良平編集) (2007. 3) 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相—2001~2005年の調査結果—。自然史研究 3 (6)：93-106.

金山敦*・木邑聡美*・吉成暁*・古澤昭人*・山西良平・中条武司 (2007. 3.) 大和川水系のプランクトンについて—2004~2005年の調査から—。大阪市立自然史博物館研究報告 (61)：53-74.

山西良平・佐藤正典 (2007. 3) 環形動物門 多毛綱。飯島明子編 第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 報告書, pp.183-193. 環境省自然環境局 生物多様性センター.

【動物研究室】

波戸岡清峰 (2006. 5). こんなんいるで大和川 (その14) メダカ. ns. 52 (5)：59.

波戸岡清峰 (2006. 7). 大和川はコイの川. ns. 52 (9)：77-78.

和田岳 (2006. 9) 大和川水系の両生類の分布についてのトピック こんなんいるで大和川 両生類残された謎編. ns. 52：102-104.

石田 惣 (2006. 8). 博物館と生態学 (2) 学校と博物館の連携で展開される生態学教育. 日本生態学会誌, 56：212-216.

大阪市立自然史博物館 (2006. 7). 第35回特別展「大和川の自然—きたない川?にもこんなんいるで—」大阪市立自然史博物館 (分担執筆：甲殻類、貝類、河口の生物、大和川水系の生物多様性の特徴と未来).

石田 惣 (2006. 6). アッキガイの食事風景~穴からのぞいて見ると. ns. 52 (6)：3-5.

石田 惣 (2006. 10). 寄らば大クラゲの蔭. ns. 52 (10)：12.

【昆虫研究室】

金沢 至 (2006. 7) ハグロトンボ, ムカシトンボ, トガリアメンボ, ジャコウアゲハ, ホソオチョウ, 大和川水系に定着しつつあるホソオチョウ. 大阪市立自然史博物館, 第35回特別展展示解説書, 43-47, 59.

金沢 至・河合正人* (2006. 7) クルマバッタ, マダラバッタ. 大阪市立自然史博物館, 第35回特別展展示解説書, 44.

多田内修*・金沢 至 (2006. 9). アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報体系化・ネットワーク化と分散検索システム. 種情報データベースの構築と利用. 日本昆虫学会第66回大会 (鹿児島) 講演要旨：111.

金沢 至 (2006. 12) 幼虫の頭をもったアゲハの成虫. ns. 52 (12)：10.

金沢 至・初宿成彦 (2006. 7) 昆虫. 5 移入種. 大阪市立自然史博物館, 第35回特別展展示解説書, 58.

金沢 至・村上 豊* (2006. 10) 虫界ニュース. アサギマダラを調べる会. 昆虫と自然2006年11月号：5.

新川 勉*・矢後勝也*・中 秀司*・金沢 至・福田晴夫*・村上 豊*・宮武頼夫*・野中 勝* (2007. 1) マダラチョウ科の分子系統. 昆虫と自然2007年1月号：5-11.

初宿成彦 (2006. 4). 表紙とジュニア会員のページ. 海をわたったカサアブラムシ. ns. 52 (4)：1-2.

初宿成彦 (2006. 4). こんなんおっただ大和川 (その13). カワラハンミョウ・カワラゴミムシ. ns. 52 (4)：7.

初宿成彦 (2006. 5). クマゼミ幼虫は暑い夏に羽化を翌年へ延ばせるか?~野外実習「クマゼミ幼虫の体重測定」から~. ns. 52 (5)：5-6.

大阪市立自然史博物館 (2006. 7). 第35回特別展「大和川の自然—きたない川?にもこんなんいるで—」解説書. (分担執筆：カワラハンミョウ, カワラゴミムシ, カワチマルクビゴミムシ, セスジゲンゴロウ類, ツシマヒラタシデムシ, ヒメドロムシ類, ゲンジボタル, マクガタテントウを担当).

大阪市立自然史博物館友の会 (2006. 7). 自然観察地図 vol. 1 (6. 男山と三川合流, 8. 貴船, 10. 湖北町, 11. 野洲川, 12. 安曇川デルタと琵琶湖岸を分担執筆).

大阪市立自然史博物館友の会 (2006. 7). 自然観察地図 vol. 2 (2. 奈良公園から春日山を分担執筆).

初宿成彦 (2006. 8). 大和川のヒメドロムシ絵解き検索. ns. 52 (8)：6-7.

初宿成彦・編 (2006. 8). 鞆公園ぬけがらのまとめ. ns. 52 (8).

Yamazaki, K*, S. Shiyake and S. Sugiura* (2006). Survival and mortality of immature mordellids (Coleoptera: Mordellidae) inducing stem-galls on the Japanese mugwort. Journal of Entomological Science (41).

初宿成彦ほか (2006. 9). クマゼミの発生周期は何年か? (その2). 日本昆虫学会第66回大会 (鹿児島) 講演要旨.

- 初宿成彦 (2006. 12). 野洲川と犬上川のキベリマメゲン
ゴロウの記録. *Came 虫* (137): 3. 滋賀むしの会.
- 初宿成彦 (2006. 12). 滋賀県内 2カ所目のヒメハルゼミ
新産地. *Came 虫* (137): 4. 滋賀むしの会.
- 初宿成彦・宮武頼夫・Montgomery, M*. (2006. 12).
ツガ樹上の捕食性甲虫群集 [Predacious beetle com-
munity on Japanese hemlocks]. 日本甲虫学会2006年
度年次大会・講演要旨 (ポスター).
- 安井通宏*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館「大和川水
系調査グループ・プロジェクト Y」甲虫班 (27名)
(2006. 12). 大和川・石川水系 のミズギワゴミムシ類
の種類相と分布状況. 日本甲虫学会2006年度年次大会・
講演要旨 (ポスター).
- 渡辺克典*・初宿成彦 (2007. 3). 岸和田市内の大阪層群
最下部から産出した後期鮮新世オサムシ族化石 (予報).
きしわだ自然資料館研究報告 (2): 7-10.
- 初宿成彦 (2007. 3). 大阪のハンミョウ. ミニガイド No.
22. 大阪市立自然史博物館. 27 pp.
- 山崎一夫*・松本吏樹郎 (2006. 5) 大阪市の湾岸部で採集
された熱帯性のクロスジズバチ *Delta esuriens*
(Fabricius). *Japanese Journal of Environmental
Entomology and Zoology* 16 (4): 175-176.
- 松本吏樹郎・高須賀圭三* (2006. 9) 日本産 *Zatypota* 属
の分類学的再検討と寄生習性について (Ichneumo-
nidae, Pimplinae, *Polysphincta*-group). 日本昆虫学
会第66回大会 (鹿児島) 講演要旨: 90.
- 高須賀圭三*・松本吏樹郎 (2006. 9) *Zatypota albicoxa*
(Walker, 1874) の生態および飼育実験による発育速度・
光周反応の解明 (Ichneumonidae, Pimplinae). 日本昆
虫学会第66回大会 (鹿児島) 講演要旨: 46.
- 松本吏樹郎 (2006. 11) 大阪のアリジゴク ns. 52 (11):
16.
- Matsumoto, R., H. Fukushima and K. Morimoto
(2007. 3). Discovery of Sapygidae (Hymenoptera)
in Japan. *Bulletin of the Osaka Museum of
Natural History*, 61: 15-18.
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔; 上谷利明 (2006. 5) 砂浜のキノコ ns. 52
(5) 1-2
- 佐久間大輔 (2006. 11) 特集キノコ キノコの不思議 素
朴な疑問, でも分かっていないこと ns. 52 (11) 2-3
- 佐久間大輔 (2006. 11) 珍菌コウボウフデを滋賀県甲賀郡
で採集 ns. 52 (11) 4
- 佐久間大輔 (2006.11) 大阪市立自然史博物館菌類標本庫
の現状 ns. 52 (11) 7-9
- 佐久間大輔 (2006) 生態学分野における博物館ボランティ
ア研究者の参加が開く可能性 (連載3 博物館と生態学
(3)) 日本生態学会誌 Vol. 56, No. 3 pp. 266-269
- 大阪市立自然史博物館 (2006. 7). 第35回特別展「大和川
の自然-きたない川?にもこんなんいるで-」解説書.
(編集担当, 「大和川を囲む里山」等を担当)
- 菊地 淳一*, 佐久間 大輔 (2006) 熱帯雨林のフタバガキ
(*Shorea parvifolia*) の根系の特徴日本森林学会大会学
術講演集 Vol. 117 pp. 54
- 佐久間 大輔, 田中 久美子* (2006) 大阪府河内長野市の
変形菌類相とその子実体発生の季節性 日本菌学会大会
講演要旨集, Vol. 50 pp. 51
- 菊地 淳一*, 上志 真裕美*, 小林 賢剛*, 佐久間 大輔
(2006) シイ-コナラ林におけるシロハツモドキの空間分
布日本菌学会大会講演要旨集, Vol. 50 pp. 68
- 内貴 章世, 中島 睦美*・内田 昌子* (2006. 5) ツル
アリドオン (アカネ科) の二型花柱性. ns. 52 (5): 55-
56.
- Fukuda T*, A. Naiki, and H. Nagamasu*. (2006. 5)
Karyotypic analysis of *Skimmia japonica* (Ruta-
ceae) and related species. *Journal of plant research*
120: 113-121.
- 内貴 章世 (2006. 7) 10-1. 大和川を囲んでいた照葉樹
林. 大阪市立自然史博物館, 第35回特別展展示解説書,
48.
- 内貴 章世 (2006. 9) 初秋の田畑を彩るヒガンバナ. ns.
52 (9): 112.
- 内貴 章世 (2007. 2) 咲かない花-閉鎖花. ns. 53 (2):
10.
- 志賀 隆 (2006. 6) 日本と外国のカワヂシャ, そしてそ
のこども. ns. 52 (6): 65-66.
- 志賀 隆 (2006. 7) 10-4. 水草. 大阪市立自然史博物館,
第35回特別展展示解説書, 50-51.
- Shiga T., J. Ishii*, Y. Isagi* and Y. Kadono* (2006.
8) *Nuphar submersa* (Nymphaeaceae), a new spe-
cies from central Japan. *Acta Phytotaxonomica et
Geobotanica* 57 (2): 113-122.
- 志賀 隆 (2007. 1) 植物の雑種形成: コウホネの場合.
ns. 53 (1): 2-3.

- Shiga T., and Y. Kadono* (2007. 2) Natural hybridization of the two *Nuphar* species in northern Japan: Homoploid hybrid speciation in progress? *Aquatic Botany* 86 (2) : 123–131.
- 【地史研究室】**
- 樽野博幸 (2006) 日本の鮮新・更新統の長鼻類化石層序. 日本第四紀学会講演要旨集, 36.
- Yoshikawa, S., Kawamura, Y., Taruno, H. (2007) Land bridge formation and proboscidean immigration into the Japanese Islands during the Quaternary. *Jour. Geosci., Osaka City Univ.*, 50 (1), 1–6.
- 塚腰 実・岡本素治* (2006. 11) 備北層群産ヒシ科化石とアスナロビシ属 (*Hemitrappa*) の比較研究. 日本植生学会第21回大会講演要旨集, 31–32.
- 山下大輔*・吉川周作*・塚腰 実・長岡真治*・熊原康博* (2006. 12) 愛媛県大洲・内子盆地に分布する下部—中部更新統の層序と編年. *第四紀研究*, 45 (6), 463–477.
- 【第四紀研究室】**
- 野尻湖貝類グループ (2006) 野尻湖層産の淡水貝類化石, その8. 第14次野尻湖発掘および第15次野尻湖発掘の成果. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告14 : 111–117. (執筆責任).
- 石井久夫・大和川水系調査グループ貝班 (2006) 近畿地方大和川水系の淡水貝類 (日本貝類学会平成18年度大会講演要旨). *Venus* 65 (3) : 268.
- 石井久夫 (2007. 3) 4. カヅマヤマ古墳出土の貝殻遺物. *カヅマヤマ古墳発掘報告書*. 33–37. 明日香村教育委員会.
- 大阪市立自然史博物館編 (2006) 第35回特別展「大和川の自然—きたない川?にも こんなんいるで—」解説書. 73 p. (分担執筆)
- 中条武司 (2006. 4) 大和川 : 河口から源流まで 1. 付け替えられた人工河川. *ns. 52 (4)* : 43–44.
- 中条武司 (2006. 7) 大和川 : 河口から源流まで 2. 古の都を流れる大和川. *ns. 52 (7)* : 79–80.
- 中条武司 (2006. 8) 大和川のはじまりはどんなところ 大和川 : 河口から源流まで 3. *ns. 52 (8)* : 89–90.
- Nakajo, T. (2006. 8) Storm and fluvial-flood sedimentation in a microtidal flat along the Kushida River estuary, Ise Bay, central Japan. Abstract, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan: P-168.
- Yamaguchi, Y.*, Nakajo, T., Komatsubara, J.*, and Ohtake, S.* (2006. 8) The collapsed deposits at the early stage of Japan Sea Spreading of the Taishu Group in the Saozaki area, the northwestern Tsushima Islands, Japan. Abstract, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan: P-078.
- Ohtake, S.*, Ito, M.* and Nakajo, T. (2006. 8) Temporal variation in major depositional processes of prograding deltaic systems in the Tertiary Taishu Group, Tsushima Islands, southwestern Japan. Abstract, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan: P-171.
- Nakajo, T., Yamaguchi, Y.*, Komatsubara, J.*, and Ohtake, S.* (2006. 8) Sedimentation and tectonics of the Tertiary delta to basin successions in the Tsushima Islands, off northwestern Kyushu. In Ito, M., Yagishita, K., Ikehara, K. and Matsuda, H. eds., *Field Excursion Guidebook*, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan, Sed. Soc. Japan, FE-B 11 : 1–12.
- 益田晴恵*・中条武司・李 曉東*・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ (2006. 9) 大和川水系の富栄養化の拡大と原因—環境科学普及活動としての水質調査. 2006年日本地球化学会第53回大会講演要旨 : 60.
- 中条武司 (2006. 12) 干潟形成の規制要因. *関西自然保護機構会報*, 28 (2) : 175–182.
- 中条武司 (2007. 3) 大阪市立自然史博物館第35回特別展「大和川の自然—きたない川?にも こんなんいるで—」. *全科協ニュース*, 37 (2) : 5–6.
- 中条武司 (2007. 3) ウェイブリップル. *ns. 53 (3)* : 29.
- 中条武司 (2007. 3) 泥のたまりかた. *ns. 53 (3)* : 32.
- 中条武司・山口悠哉* (2007. 3) タービダイト相に見られる波状層理 : 対馬北西部佐護地域の第三系対州層群の例. 堆積学研究会2007年例会 (つくば) プログラム・講演要旨 : 64.
- 山口悠哉*・中条武司 (2007. 3) 対馬北部の第三系対州層群斜面相にみられる砂岩体と海底地すべり堆積物. 堆積学研究会2007年例会 (つくば) プログラム・講演要旨 : 33.
- 中村圭助*・大竹左右一*・伊藤 慎*・中条武司 (2007. 3)

デルタシステムに認められるハイパーピクナイトの特徴
一長崎県対馬，第三系対州層群上部層の解析一．堆積学
研究会2007年例会（つくば）プログラム・講演要旨：87-
88.

益田晴恵*・中条武司・李 曉東*・大阪市立自然史博物館
大和川水系調査グループ水質班（2007. 3）大和川水系
の水質と富栄養化の状態に関する予察的報告．大阪市立
自然史博物館研究報告，(61)：21-51.

金山 敦*・木邑聡美*・吉成 暁*・古沢昭人*・山西良平・
中条武司（2007. 3）大和川水系のプランクトンの概要
について —2004～2005年の調査結果から—．大阪市立
自然史博物館研究報告，(61)：53-74.

IV. 文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
亜熱帯林床性植物における同属多種の 同所的共存を可能にしている要因の検証	内貴章世
(2年間継続の2年目)	(課題番号 17770079)

○11月13日～19日の7日間，沖縄県八重山郡竹富町（西表
島）に出張した。

○西表島において，ルリミノキ属植物の開花パターンおよ
び訪花昆虫の調査と，袋掛け実験を行った。

○ルリミノキ属の自家不和合性検証のための資料収集を行っ
た。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
鮮新世から更新世に日本から絶滅した 甲虫類に関する研究	初宿成彦
(年間継続の年目)	(課題番号 18770074)

○10月5日～10日の6日間および11月13日～16日の4日間，
北海道に出張した。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者	当館分担者
アジア産農林害虫・有用昆虫の 種情報の体系化・ネットワーク化 と分散検索システム	多田内修	金沢 至

(3年間継続の1年目) (課題番号 18208006)

○昆虫類の完模式標本のデータを入力した。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
環境変動下における果実の結実 フェノロジーと種子散布者の 動態に関する広域研究	上田恵介	和田 岳

(4年間継続の4年目) (課題番号 15310162)

○近畿地方の調査研究を分担した。

3. 当館学芸員が研究協力者となったもの

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者	当館分担者
日華植物区系の西端としての 南ヒマラヤ地域の植物の多様性	邑田 仁	内貴章世
		(課題番号 17255004)

○12月5日～12月16日の11日間，ミャンマー連邦に出張し
た。

○ミャンマー西部のアラカン州サンドウエイ周辺地域にお
いて植物相の調査を行い，資料収集を行った。

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者	当館分担者
熱帯アジアにおける昆虫 インベントリーと国際ネット ワークの拡大	矢田 脩	松本吏樹郎
		(課題番号 17255001)

○4月28～5月8日の11日間にベトナム社会主義共和国に
出張した。

○ベトナム北部の Bac Kan 省，Ba Be 国立公園にて昆
虫相の調査を行った。

V. 財団等の助成を受けて行った研究

■大阪市立大学・都市問題研究

研究課題	研究代表者	当館分担者
市民と共に探る 大阪のセミの謎	沼田英治	初宿成彦

○市民聞きとりアンケートの企画・実施などを担当した。

■アメリカ合衆国農務省

研究課題	研究代表者
ツガカサアブラムシおよび ツガカイガラムシの天敵の 評価と収集	初宿成彦

- 大阪府高槻市などで定期的に調査を行った。
○5～6月にアメリカ人研究者とともに、日本国内で野外調査を行った。

■財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団（平成17年度）第14回学術研究助成金

研究課題	研究代表者
長崎県対馬の第三系の地層形成と 日本海形成初期～テクトニクス	中条武司

- 長崎県対馬におけるデルタ～斜面～半深海成相の堆積学的検討を行い、日本海形成初期におけるテクトニクスを考察した。

■総合地球環境学研究所プロジェクト5-3

研究課題	研究代表者	当館分担者
日本列島における人間－自然相互関係 の歴史的・文化的検討	佐久間大輔	

- 近畿班プロジェクトメンバーとして分担（全体経費8000万円）。近畿班では里山収奪の歴史的過程を検討している。特に2006年度から2007年度にかけては京都府宮津市上世屋地区の古民家を対象とした部材の調達範囲など、民俗生態学的な検討を深めた。

■日産科学振興財団理科／環境教育助成

研究課題	研究代表者	当館分担者
NPOと連携した生徒・教員向け 隠花植物実習およびキット開発 (40万円 2006. 11－2007. 10)	佐久間大輔	

- 博物館単独では通常実施が困難な隠花植物の観察実習を、外部講師の協力を得ながら教員や指導者向けに実施し、その観察成果を学習素材として活用できるよう整備を試みている。

■大阪市文化財総合調査業務

研究課題	研究代表者	当館分担者
畔田翠山さく葉帳の調査 幕末の紀州藩土畔田翠山は、白山、吉野などで丹念な植	佐久間学芸員・瀬戸剛元学芸員	

物調査を行った本草家として数多くの著作を残している。堀田龍之介旧蔵の同氏関連資料の中に植物標本が含まれており、大阪市立博物館より自然史博物館に移管され、保存されている。歴史的にも、また日本の博物学史の上でも重要な意味を持つこの標本について、最低限の修理を施すとともに、大阪市指定文化財としての価値を評価するため、その内容および状態を調査する。大阪自然史センターが受託、元興寺文化財研究所の指導を受け修理と撮影記録を行う。

（参考）上野益三（1974）畔田翠山がつくったさく葉帖
Nature Study 20（8）5－8

VI. 海外出張・派遣

■科研費（基盤研究A）による出張

氏名：松本吏樹郎

日程：2006年4月28日～5月8日（11日間）

出張先：ベトナム社会主義共和国 Bac Kan 省

目的：ベトナム北部の昆虫相調査。詳しくはIV-3「基盤研究（A）」を参照。

VII. 学会等での役職

波戸岡

日本魚類学会評議員

和田

日本鳥学会広報委員会委員

石田

日本動物行動学会動物行動の映像データベース運営委員

金沢

日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト事務局

日本環境動物昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員

自然史学会連合博物館部会委員

大阪市立大学理学部非常勤講師「生物学実験B」

初宿

日本昆虫学会評議員

日本甲虫学会運営委員・和文誌編集委員

日本鞘翅学会非常任幹事

日本環境動物昆虫学会企画委員

大阪市立大学・大学院理学研究科・客員研究員

川端

日本地質学会代議員

地学団体研究会全国運営委員

塚腰

化石研究会運営委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

植生史学会編集委員

大阪市立大学 教務部 非常勤講師「大阪の自然」を担当

中条

日本地質学会代議員

17th International Sedimentological Congress
(Fukuoka) 見学旅行案内

内貴

日本植物分類学会ニュースレター連絡員

三重県生物多様性保全アドバイザー

VIII. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成17年度に受け入れた外部研究者を表1に示す。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

Jin, C. Z., Sun, C. K., and Zhang, Y. Q. (2007) LUNANOSOREX (INSECTIVORA, MAMMALIA) FROM THE PLIOCENE OF NORTH CHINA. *Vertebrata Palasiatica* 45, 74–88.

Zhang Y., Kawamura Y., Jin C, (2006) A new species of the extinct vole *Villanyia* from the Early Pleistocene of Central China, with comments on the relationship to the Transbaikalian species. "Stratigraphy, paleontology and paleoenvironment of Pliocene-Pleistocene of Transbaikalia and interregional correlations", Sub-commission on Asian Quaternary Tratigraphy of INQUA, International Symposium, August 28th -September 3rd, 2006, Ulan-Ude, Russia.

佐藤隆春・大和大峯研究グループ (2006) 大峯・大台コールドロン —紀伊山地中央部にみられる弧状および半円形の断層・岩脈群と陥没構造—. *地球科学*60 (5) : 403–413.

佐藤隆春・大滝ダム地すべり問題調査団 (2006) 大滝ダム試験湛水で発生した白屋地区地すべり災害. 第16回環境地質学シンポジウム論文集 : 265–270.

佐藤隆春・田崎正和 (2006) 阪神・淡路大震災から11年 —現実と課題—. *地学教育と科学運動* (51) : 3–10.

佐藤隆春・大滝ダム地すべり問題調査団 (2006) 大滝ダム湛水による白屋地区地すべり災害. *地学団体研究会第60回つくば総会プログラム・講演資料集* : 168–169.

国土問題研究会大滝ダム地すべり自主調査団 (2006) 大滝ダム地すべり災害の検証 *国土問題*68. 128 p

佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳正. 別所孝範・鎌田浩毅・山本俊哉 (2006) 室生火砕流堆積物の給源火山は紀伊山地・大台コールドロン. *日本火山学会講演予稿集2006年度秋季大会* : 126.

佐藤隆春・大和大峯研究グループ (岩橋豊彦, 奥田 尚, 佐藤浩一, 竹内靖夫, 南浦育弘, 八尾 昭) (2006) 紀伊山地中央部に形成された中新世の大規模コールドロン. *日本地質学会第113年学術大会講演要旨* : 230.

佐藤隆春・大和大峯研究グループ (岩橋豊彦, 奥田 尚, 佐藤浩一, 竹内靖夫, 南浦育弘, 八尾 昭) (2006) 紀伊山地中央部に形成された中新世の大規模コールドロン. *地学団体研究会第60回つくば総会プログラム・講演資料集* : 164–165.

佐藤隆春 (2006) 二上山とその周辺の地質風景. *国土と地質と観光と～地球が創る美しさ, 夢中になれる日本の自然～* : 128. NPO 法人地質情報整備・活用機構, 173 p.

佐藤隆春 (2006) 室生火砕流堆積物がつくる大和高原の地質風景. *国土と地質と観光と～地球が創る美しさ, 夢中になれる日本の自然～* : 117. NPO 法人地質情報整備・活用機構, 173 p.

大和大峯研究グループ (2007) 紀伊山地中央部の中・古生界 (その10) —大杉地域—. *地球科学*61 (1) : 33–47.

澤田義弘 (2006) 連載・南大阪の甲虫 (1), *南大阪の昆虫*, 8 (1) : 5–9.

澤田義弘 (2006) 連載・南大阪の甲虫 (2), *南大阪の昆虫*, 8 (2) : 27–28.

澤田義弘 (2006) 連載・南大阪の甲虫 (3), *南大阪の昆虫*, 8 (3) : 48–51.

澤田義弘 (2006) 連載・南大阪の甲虫 (4), 南大阪の昆虫, 8 (4): 72-75.

澤田義弘 (2006) アリツカコオロギの1種, 昆虫館だより No.92

澤田義弘 (2006) 箕面公園の昆虫・・・落ち葉の中を探してみよう, 昆虫館だより No.94

清水裕行 (2007) 日本列島における2005・2006両年のゴケグモ類の新聞報道を中心とした分布資料一覧. くものいと (印刷中)

花崎勝司・山田浩二 (2007) “大阪湾におけるトビハゼの記録” 村上健太郎・平田慎一郎編著, 波打ち際の自然史. 岸和田教育委員会, きしわだ自然資料館, 大阪, p. 35-36.

Hongo, M. (2007) Stratigraphic distribution of Hemiptelea (Ulmaceae) pollen from Pleistocene sediments in Osaka sedimentary basin southwest Japan. Review of Paleobotany and Palynology 144, 287-299.

表 1. 平成18年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
張 穎奇	研究生	大阪市立大学 吉川周作教授	樽野博幸
石田路子	外来研究員	本人	和田 岳
岡本素治	外来研究員	本人	内貴章世
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
西城 洋	外来研究員	本人	初宿成彦
佐藤隆春	外来研究員	本人	石井久夫
澤田義弘	外来研究員	本人	初宿成彦
清水裕行	外来研究員	本人	金沢 至
永田映子	外来研究員	本人	和田 岳
西澤真樹子	外来研究員	本人	和田 岳
花崎勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林 勇夫	外来研究員	本人	山西良平
本郷美佐緒	外来研究員	本人	塚腰 実
松村 勲	外来研究員	本人	山西良平
道盛正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
米澤里美	外来研究員	本人	和田 岳

資料収集保管事業

I. 主な購入標本

該当なし

II. 寄贈および交換標本

■動物研究室

堺市のタヌキ	1点	浦野 信孝氏	高島市のムササビ	1点	浦野 信孝氏
伊丹市のカワウ	1点	高津 一男氏	堺市のアライグマ	1点	浦野 信孝氏
笠置町のシロハラ	1点	中津 弘氏	兵庫県のキクガシラコウモリ	1点	浦野 信孝氏
奈良市のネズミ・鳥	10点	井上美恵子氏	松原市のイタチ	1点	寺川 裕子氏
奈良市のタヌキ他	2点	河原 風花氏	守口市のハシボソミズナギドリ	1点	佐々木 勇氏
広島県のシマヘビ他	2点	西澤真樹子氏	淀川区のスズメ	1点	安田虹太郎氏
石川県のパン	1点	熊代 直生氏	滋賀県のハクビシン他	2点	熊代 直生氏
広島県のテン	1点	橋本 順子氏	服部緑地のアズキガイ他	5点	西澤真樹子氏
加古川河口産オカミミガイ・タケノコカワニナ	4点	松村 勲氏	福井県のタヌキ	1点	三原 学氏
ヒメメナガオサガニ <i>Macrophthalmus microfylacas</i>			河内長野市のアライグマ	1点	大石 陽氏・大石 玲子氏
副模式標本	7点	渡部 哲也氏			
山口県のアナグマ	1点	橋本 順子氏	高石市のムクドリ	1点	松下 宏幸氏
福井県のハクビシン	1点	安田 一彦氏	能勢町のヒバカリ他	6点	西澤真樹子氏
枚方市のキツネ他	2点	稲森 郁子氏	長崎県のツバメ	1点	浅井真紀子氏
堺市のチョウセンイタチ	1点	浦野 信孝氏	兵庫県のネコ・タヌキ	2点	
川西市のシカ他	3点	浦野 信孝氏			
広島県のシカ	1点	藤本龍之介氏	大石 陽氏・大石 玲子氏	1点	三原 学氏
香川県のブタ	1点	松井 賢児氏	福井県のタヌキ	1点	浦野 信孝氏
池田市のカヤネズミ	1点	今城香代子氏	堺市のカミツキガメ	1点	浦野 信孝氏
西宮市のメジロ	2点	道盛 正樹氏	高石市のイソヒヨドリ他	2点	松下 宏幸氏
久米島のジャコウネズミ	1点	佐藤 剛大氏	枚方市のシメ	1点	小田川憲次氏
長野県のシカ頭骨他	2点	太田 太氏	富田林市のドブネズミ	3点	松下 宏幸氏
兵庫県のタゴガエル他	8点	米澤 里美氏	高石市のムクドリ	1点	松下 宏幸氏
住之江区のイタチ	1点	浦野 信孝氏	石川・東除川・西除川流域のカブトエビ類	23点	富永 修氏
兵庫県のキクガシラコウモリ他	8点	浦野 信孝氏	大東市のキジバト	1点	西畑 敬一氏
六甲山のスミスネズミ他	5点		泉南市のサンコウチョウ	1点	佐々木 勇氏
大石 陽氏・大石 玲子氏			兵庫県宍粟市の動物	18点	米澤 里美氏
宮津市のノゴマ	3点	谷 陽子氏	石川のワニガメ・アオバズク	2点	福田 裕氏
和歌山県のコウモリ他	4点	山本浩久氏他	香芝市のドバト	1点	河原 風花氏
福井県のテン	1点	三原 学氏	田尻町のハクセキレイ	1点	石井 葉子氏
天理市のタヌキ	1点	河原 風花氏	堺市のタヌキ	1点	福岡 賢造氏
橿原市のキツネ	1点	辻本 始氏	富田林市のネコ	1点	松下 宏幸氏
明日香村のタヌキ	1点	田川 寛氏	天理市のアライグマ	1点	河原 風花氏
天理市のノウサギ	1点	河原 風花氏	河内長野市のアライグマ	1点	
					石井 亘氏・柴崎 高宏氏
			貝塚市のアライグマ	1点	西澤真樹子氏
			泉佐野市のアライグマ	1点	西澤真樹子氏
			大淀町のトビ	1点	木村 全邦氏
			若狭沿岸の海岸動物	3点	
					大阪湾海岸生物研究会
			富田林市・河南町の鯉脚類	9点	富永 修氏
			池田市のヒミズ	1点	今城香代子氏

住吉区のネコ	1点	橋 麻紀乃氏	広島県のハクセンシオマネキ	4点	藤本龍之介氏
天王寺動物園のキリン	1点	天王寺動物園	八尾市のノゴマ	1点	土井 妙子氏
南港野鳥園のフトヘナタリ	1点	和田 太一氏	五條市のキツネ	1点	丸山健一郎氏
愛知県のコウベモグラ	2点	三原 学氏	トラの毛皮	1点	吉田 成男氏
杉本一雄コレクション	405点	寺本 氏	上北山村のテン	1点	
福島区のウソ他	4点	徳永 恂氏		木村 全邦氏・道盛 正樹氏	
ヤシガニ	1点	大阪府警門真署	泉佐野市のタヌキ	1点	福島 征二氏
和歌山県のハシボソミズナギドリ	7点	久保田 信氏	熊取町のイカル	1点	堀内 朱美氏
山口県のトノサマガエル他	2点	橋本 順子氏	福井県のリス	1点	三原 学氏
箕面市のイノシシ	1点	西岡 稔氏	中央区のカワセミ	1点	松山 利夫氏
八尾市のアカショウビン	1点	土井 妙子氏	住吉区のキビタキ	1点	大塚 利夫氏
北区のコルリ	1点	室戸 美紀氏	東京都のヤマシギ	1点	溝淵奈穂子氏
北海道の海鳥	4点	小林 真樹氏	六甲山のタヌキ	1点	大石 玲子氏
川上村のムササビ	1点	佐々木 勇氏	大東市のタヌキ	1点	西畑 敬一氏
多賀町のイノシシ	1点	阿部 勇治氏	豊中市のネコ	1点	錦 俊哉氏
ヒラツノモエビ?	1点	藤本龍之介氏	長野県のシカ	1点	佐々木国勝氏
葛城市のスズエビ・エビノコバン	6点		長居公園のヤマシギ	1点	西澤真樹子氏
		丸山健一郎氏・前田 一郎氏	西宮市のユリカモメ	1点	広岡 隆氏
熊本県のウグイス	1点	渡部 哲也氏	枚方市のキツネ	1点	枚方市役所
神戸市のタヌキ	2点	大石 玲子氏	岸和田市のルリビタキ	1点	中道 治子氏
住吉大社のカトウナタネガイ	2点	河野 芳美氏	等脚類副模式標本	8点	布村 昇氏
ネコ	1点	上田紗耶子氏	堺市のチョウセンイタチ	1点	浦野 信孝氏
島根県のアオイガイ	15点	坂本 玉子氏	千葉県のハツカネズミ	4点	西澤 雅子氏
中国の二枚貝類	9点	岡村親一郎氏	豊中市のアブラコウモリ	1点	小柏 俊彦氏
淀川区のシマミミズ	1点		泉佐野市のタヌキ	1点	西澤真樹子氏
		淀川区保健福祉センター	箕面市のシカ	1点	浦野 信孝氏
京都府のメジロ	1点	河原 太八氏	堺市のタヌキ	1点	上田紗耶子氏
泉大津市のダイゼン	1点	納家 仁氏	堺市のシロハラ	1点	弘岡 和子氏
箕面市のキビタキ・サル・ヘビ	5点	澤田 義弘氏	天王寺区のシロハラ	1点	藤本龍之介氏
岬町のアオウミガメ	1点	鍋島 靖信氏	岸和田市のキビタキ・メジロ	5点	佐々木 勇氏
岡山県のマイマイ	6点	本位田庸夫氏	茨木市のアオバズク	1点	秋山 恵里氏
天王寺動物園のコアラ他	135点	天王寺動物園	長居植物園のネコ	1点	
大和川の水生生物	13点	山野 護氏		堀 友祐氏・高橋 佑輔氏・井本 拓弥氏	
由良町のウミガメ	3点	花野 晃一氏	兵庫県のエビナガコウモリ	3点	浦野 信孝氏
福井県のミズゴマツボ	10点	石田 未基氏	河内長野市のニシキマイマイ	1点	田中久美子氏
天理市のタヌキ	1点	河原 風花氏	猪名川町の陸産貝類	2点	森田 諒氏
豊中市のスズメ・カワラヒワ	2点	大矢 樹氏	昭和7年頃採集の南紀の貝類	257点	
奈良市のキジバト	1点	松浦 宣弘氏		高石市教育委員会	
川上村のヒヨドリ	1点	木村 全邦氏	横浜市のシジュウカラ	1点	鎌田健二郎氏
関西空港の鳥	3点	加藤 健二氏	沖縄本島のオリオオコウモリ	3点	吉岡 由恵氏
堺市の鳥	8点	浦野 信孝氏	和歌山県のネコ	1点	西澤真樹子氏
交野市のハリガネムシ	2点	岡本 素治氏	京都府のタヌキ	1点	西澤真樹子氏

資料収集保管事業

福井県のシカ	5点	米澤 里美氏	大阪府環境農林水産部
堺市のアオダイショウ他	3点	浦野 信孝氏	隠岐他の海岸生物
堺市の鳥類他	10点	浦野 信孝氏	中国のテナガエビ類
箕面市のシカ	1点	K. Furusato 氏	沖縄県のリュウキュウヒルギシジミ
羽曳野市のコウベモグラ	1点	津田 滋氏	1点
和泉葛城山のコルリ	1点	佐々木 勇氏	志津川のソメワケウミクワガタ
豊中市のアブラコウモリ	1点	森田 諒氏	高槻市のアライグマ
熊野市のヒミズ	1点	富永 修氏	奈良県のタヌキ
猪名川町の陸貝	2点	森田 諒氏	岸和田沖のカニ類
<i>Paraprionospio</i> 属多毛類標本 (正模式・副模式標本含む)			岸和田漁港 鳥野氏
	114点	横山 壽氏	交野市のハヤブサ
チゴガニ類 <i>Ilyoplax pacifica</i> 副模式標本他			1点
	17点	和田 恵次氏	大阪府動物愛護畜産課
奈良市のクサガメ	1点	西澤真樹子氏	田尻町のメジロ
能勢町のイノシシ	1点	西澤真樹子氏	高石市のヒヨドリ
箕面市のシカ	2点	瓜坂 捷司氏	天王寺区のヒレンジャク
宮城県のおオミズナギドリ	1点	丸山健一郎氏	長居のハシブトガラス
小笠原のヤギ他	3点	西澤 秀一氏	グリーンイグアナ
高槻市のハツカネズミ	1点	藤田 美美氏	滋賀県のイモリ他
堺市のハツカネズミ	1点	浦野 信孝氏	宝塚市のハイタカ
名古屋港のミナトオウギガニ	5点	伊勢田真嗣氏	大阪府のヌートリア・アライグマ
長居のタヌキ	1点	屋 秀敏氏	住吉区のメジロ
枚方市のイタチ	1点	長島 照文氏	尾鷲沖魚類・無脊椎動物
葛城市のタヌキ	1点	前田 露氏	13点
服部緑地の陸貝	11点	西澤真樹子氏	石田 (佐藤) 路子氏
五條市のノウサギ	1点	丸山健一郎氏	三田市のタヌキ
岸和田市のタヌキ	1点	北川 敏喜氏	宇陀市のタヌキ
葛城市のタヌキ	1点	前田 露氏	熊本県のタヌキ
堺市のタヌキ	1点	上田紗耶子氏	ミナトオウギガニ・キタアメリカフジツボ
滋賀県のクマ	1点	白川 芳雄氏	4点
金沢市のネコ	1点	谷 春代氏	大谷 道夫氏
神戸市のタヌキ	1点	神山 義徳氏	城ヶ崎のホヤ・カイメン
河内長野市のムクドリ	1点	岩崎 佳子氏	奈良市のアカネズミ
余呉町のシカ・イノシシ	2点		兵庫県のニホンジカ他
			山口県のノウサギ
田尻町のメジロ	1点	石井 葉子氏	奈良市のタヌキ
兵庫県のカシラダカ	1点	宮本 大右氏	■昆虫研究室
兵庫県のアカネズミ	1点	米澤 里美氏	日本産昆虫
各地産モクズガニ	3点	福西 勝之氏	6点
甲殻類他	54点	渡部 哲也氏	岐阜県産ヒメハルゼミ脱殻
奈良市のアカネズミ他	3点	河原 風花氏	3点
大阪府のアライグマ	3点		高井 泰氏
			フィリピン・パラワン産ベニボタル副模式標本
			2点
			松田 潔氏
			ボルネオ・サバ産コガネムシ副模式標本
			4点
			越智 輝雄氏
			尼崎市産昆虫
			232点
			大宮 文彦氏
			関西地方産昆虫等
			241点
			大宮 文彦氏

尼崎市産昆虫	324点	大宮文彦氏	ブラジル産翼竜化石・魚化石	3点	玉腰由美氏
オオツチグモ科の一種	1点	堺南警察署	近畿地方産中生代・新生代貝化石一式		鈴木和男氏
北山昭・健司コレクション	14,928点	北山健司氏	ネパール産アンモナイト・岩塩	4点	加藤隆弘氏
G. Lewis コレクション	2,158点		■第四紀研究室		
		安藤清志・故中條道夫氏	大阪市内ボーリング資料	16件	大阪市建設局
コガネムシ科甲虫副模式標本	4点	越智輝雄氏	III. 館員による資料収集		
日本産ハチ類	26点	村上協三氏	■動物研究室		
関東地方産昆虫等	117点	内田正吉氏	担当学芸員は波戸岡…H, 石田…Iと略記する。		
東北地方産ハラミドリヒメギス新亜種模式標本	6点	草刈広一氏	大和川流域(大阪府、奈良県)で魚類を採集		
日本産昆虫	135点	市川顕彦氏	(4月, 5月, 6月, 7月, H)		
シロチョウ類核型研究標本	10点	前木郁子氏	奈良県・大阪府の大和川水系で淡水貝類・甲殻類を採集		
台湾産カミキリムシ等昆虫	8,604点	鳥飼光子氏	(4-8月, I)		
大阪府産ハエ類	2点	市川顕彦氏	福井県嶺南沿岸で海産無脊椎動物を採集 (8月, I)		
関東地方産昆虫	556点	内田正吉氏	兵庫県新舞子周辺で海産無脊椎動物を採集 (10月, I)		
世界の蝶・蛾・ビワハゴロモ類	3,591点	岡村宏一氏	■昆虫研究室		
笹川満廣双翅目コレクション	20,918点	京都府立大学	日本産昆虫の平均的収集, 大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で, 担当学芸員(金沢-K, 初宿-S, 松本-Mと略記)が行った出張は次の通り. 調査研究や資料収集のほか, 普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した.		
■植物研究室			4月2日	柏原市・八尾市	大和川水系の甲虫(S)
寄贈および交換(*)標本. 約2,200点もの寄贈や交換があったことは, 2001年度より利用可能となった新収蔵庫の効果であろう. 市民の期待に応えることの重要性をうかがうことができる.			4月6日	滋賀県高島市	琵琶湖岸の甲虫(S)
近畿地方産植物	500点	梅原 徹・丸井 英幹氏	4月12日	高槻市中畑	ツガの甲虫類(S)
近畿地方産植物	500点	瀬戸 剛氏	4月18日	千早赤阪村・金剛山	大和川水系の甲虫(S)
近畿地方産植物	100点		4月22日	羽曳野市・柏原市	大和川水系の甲虫(S)
		大本花明山植物園*	4月23日	高槻市三島江	レンゲ畑の昆虫(M)
三重県産植物	150点	田中 光彦氏	4月24日	神戸市森林植物園	ツガの甲虫類(S)
日本産植物	300点	藤井 伸二氏	4月28~5月8日		
日本産植物	3点	藤井 俊夫氏		ベトナム Ba Be 国立公園	昆虫一般(M)
日本産植物	100点		5月1日	高槻市中畑	ツガの甲虫類(S)
		兵庫県人と自然の博物館*	5月5日	奈良県桜井市・長谷寺	
日本産植物	200点				照葉樹林の甲虫類(S)
		首都大学東京 牧野標本館*	5月8~12日	南アルプス・ハッ岳	ツガ・トウヒの昆虫類(S)
日本産植物	400点		5月14日	豊能初谷	昆虫一般(M)
		京都大学 総合博物館*	5月15~18日	高知県馬路村・徳島県剣山	ツガの昆虫類(S)
日本産菌類標本	200点	関西菌類談話会	5月17~18日	兵庫県波賀町赤西溪谷	昆虫一般(M)
大阪府産変形菌類	100点	田中久美子氏	5月21日	兵庫県三田市	ハチ(M)
■地史研究室			5月22日	平石峠	昆虫一般(M)
アメリカ産珪化木・モロッコ産三葉虫他					
	3点	田中たずこ氏			
湯浅町産植物化石・貝化石	5点	矢船正虎氏			

資料収集保管事業

5月24・26日	岬町	ハルゼミ (S)	8月14日	高槻市中畑	ツガの甲虫類 (S)
5月28日	兵庫県淡路市松帆の浦	アサギマダラ (K)	8月14日	藤井寺市道明寺大和川河川敷	
5月29日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫一般 (M)			昆虫一般 (M)
6月1・17日	奈良県高取町	大和川水系の甲虫 (S)	8月16日	奈良県曽爾村曾爾高原	昆虫全般 (K)
6月2日	河内長野市岩湧山	甲虫類など (S)	8月17日	能勢町剣尾山	セミ (S)
6月3～5日	台湾台北市陽明山公園	アサギマダラ (K)	8月19～21日	奈良県曽爾村曾爾高原	昆虫全般 (K)
6月4日	平石峠	昆虫一般 (M)	8月20日	兵庫県丹波市	昆虫化石・セミ (S)
6月5日	高槻市中畑	ツガの甲虫類 (S)	8月21日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫一般 (M)
6月6日	槇尾山	昆虫一般 (M)	8月21日	兵庫県白髪山	セミ (S)
6月11日	ジュニア磯	昆虫一般 (M)	8月23日	京都府亀岡市・半国山	セミ (S)
6月12日	岬町孝子	昆虫一般 (M)	8月24日	奈良県高取市・宇陀市・奈良市	セミ (S)
6月12～14日	奈良市・桜井市・天理市・河内長野市・ 柏原市ほか	大和川水系の甲虫 (S)	8月27～29日	和歌山県白浜町	昆虫全般 (K)
6月17日	箕面市箕面	昆虫一般 (M)	8月28日	滋賀県鈴鹿山地	セミ (S)
6月18日	豊能町三草山	昆虫一般 (M)	8月28日	大阪市靱公園	昆虫一般 (M)
6月21～24日	南アルプス・八ヶ岳・富士山		8月29日	三重県布引山地	セミ (S)
		ツガ・トウヒの昆虫類 (S)	8月30～31日	愛媛県松山市	ハチ (M)
6月30～7月2日			9月1日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	ガ (M)
	青森県津軽 湿地の昆虫類・昆虫化石 (S)		9月3日	西区靱公園	セミのぬけがら (S, M)
7月3～5日	青森県岩木山・八甲田山		9月7日	池田市五月山	ハチ (M)
		コメツガの昆虫類 (S)	9月10日	池田市五月山	昆虫一般 (M)
7月2日	箕面市箕面	昆虫一般 (M)	9月18～20日	屋久島	ツガの昆虫類・セミ (S)
7月4～5日	沖縄県国頭村	昆虫一般 (M)	9月24日	高槻市摂津峡	昆虫一般 (M)
7月8～9日	岐阜県蛭ヶ野	昆虫一般 (M)	10月2日	藤井寺市石川～大和川	バッタ類 (K)
7月10日	高槻市中畑	ツガの甲虫類 (S)	10月3日	茨木市泉原	昆虫類 (S)
7月10日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫一般 (M)	10月3日	豊能町高代寺山	昆虫一般 (M)
7月12日	箕面市箕面	昆虫一般 (M)	10月5～10日	北海道千歳市・早来町・別海町	
7月15～16日	兵庫県波賀町赤西溪谷	昆虫一般 (M)			昆虫化石 (S)
7月30～31日	愛媛県久万町石鎚山	昆虫一般 (M)	10月5～8日	韓国木甫、珍島、タンク村など	
8月1～2日	滋賀県高島市・彦根市・大津市ほか				アサギマダラ (K)
		セミ類 (S)	10月8日	豊能町高代寺山	昆虫一般 (M)
8月3日	滋賀県金養岳	ハチ (M)	10月9日	千早赤阪村金剛山	昆虫一般 (M)
8月4日	兵庫県宝塚市武田尾		10月12日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫一般 (M)
		フクイアナバチ撮影 (M)	10月14日	箕面市箕面	昆虫一般 (M)
8月4日	河内長野市滝畑	水生昆虫 (M)	10月15日	藤井寺市石川～大和川	バッタ類 (K, M)
8月4日	大阪市住之江公園, 南港	ハチ (M)	10月16日	高槻市中畑	ツガの甲虫類 (S)
8月6日	河内長野市滝畑	ヒメドロムシ (S)	10月18日	槇尾山	昆虫一般 (M)
8月7日	藤井寺市道明寺大和川河川敷		10月20日	滋賀県高島市	湿地の昆虫 (S)
		昆虫一般 (M)	10月24・29日	高槻市摂津峡	トンボ類 (K)
8月11～13日	愛媛県久万町石鎚山	昆虫一般 (M)	11月2日	河内長野市・岩湧山	昆虫類 (S)
8月12日	滋賀県大津市びわ湖バレイ		11月5日	兵庫県多田銀山	昆虫一般 (M)
		アサギマダラ (K)	11月13～16日	北海道江差町・厚沢部町	昆虫化石 (S)
			12月3日	愛媛県宇和島市山財ダム	昆虫一般 (M)

12月6日	泉佐野市新滝ノ池	昆虫一般 (M)			水生・湿生植物 (G)
12月8日	東大阪市枚岡公園	昆虫一般 (M)	6月26日	奈良県橿原市	水生植物 (G)
1月3日	愛媛県三崎町	昆虫一般 (M)	6月29日～7月3日		
1月4日	愛媛県西条市榎原山	昆虫一般 (M)		韓国济州島	菌類など (S)
1月21日	川西市笹部	昆虫全般 (K)	7月9日	大阪府箕面市	植物一般 (N)
1月23日	宇治市	ツガのアブラムシ (S)	7月10日	奈良県橿原市	水生植物 (G)
2月23～25日	徳島県剣山、高知県土佐山田村、 愛媛県愛南町	(S)	7月16日	島本町若山神社	菌類など (S)
3月12～15日	東京、筑波、日光		7月16～17日	京都府舞鶴市、福井県高浜町	植物一般 (N)
		ツガのカサアブラムシ (S)	8月20日	大阪府能勢町	植物一般 (N)
3月19～23日	霧島	ツガのカサアブラムシ (S)	8月23日	大阪府堺市、柏原市、藤井寺市	植物一般 (G)
■植物研究室					植物一般 (G)
調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…S、内貴…N、志賀…Gと略記する。			8月30～31日	京都市左京区久多	菌類など (S)
4月3日	貝塚市二色浜	菌類など (S)	9月4～6日	高知県宿毛市、四万十市	植物一般 (N)
4月14日	川西市内馬場	菌類など (S)	9月8日	大阪府高槻市	植物一般 (G)
4月20日	大阪府高槻市	植物一般 (N)	9月9日	福井市足羽山	菌類など (S)
4月24日	奈良県桜井市寺川	水生植物 (G)	9月9日	奈良県奈良市	植物一般 (G)
4月28日	奈良県上北山大台ヶ原	菌類など (S)	9月13日	大阪府高槻市撰津峡	植物一般 (N)
4月29日	大阪府富田林市	水生・湿生植物 (G)	9月17日	北海道大学菌類標本庫	菌類など (S)
5月4日	奈良県桜井市	照葉樹林の植物 (N)	9月22日	交野市	菌類など (S)
5月5日	奈良県桜井市	植物一般 (N・G)	9月23～24日	栃木県日光市	水生・湿生植物 (G)
5月11～12日	能勢町三草山	菌類など (S)	10月3日	大阪府豊能町高代寺山	植物一般 (N)
5月12日	大阪府富田林市石川周辺	水生・湿生植物 (G)	10月4日	大阪府堺市、和泉市	植物一般 (G)
5月16日	京都市左京区鞍馬	植物一般 (N)	10月5日	大阪府岬町	植物一般 (G)
5月17日	奈良県桜井市寺川	水生・湿生植物 (G)	10月6日	大阪府寝屋川市	植物一般 (G)
5月17～18日	京都府舞鶴市、福井県高浜町	植物一般 (N)	10月12日	大阪府交野市、四条畷市	植物一般 (G)
5月22日	大阪府富田林市	植物一般 (G)	10月16日	能勢町初谷	菌類など (S)
5月24日	奈良県桜井市大和川	植物一般 (G)	10月16日	大阪府豊能町初谷	植物一般 (N)
5月25日	大阪府河内長野市	植物一般 (N)	10月18日	大阪府河内長野市槇尾山	植物一般 (N)
5月31日～6月1日			10月26日	大阪府千早赤阪村金剛山	植物一般 (N)
6月1日	川西市内馬場	菌類など (S)	10月26日	兵庫県小野市、三木市、加西市	水生・湿生植物 (G)
6月2日	奈良県御所市	植物一般 (G)	10月27日	能勢町初谷	菌類など (S)
6月6日	大阪府河内長野市岩湧山	植物一般 (N)	11月2日	大阪府河内長野市岩湧山	植物一般 (N)
6月6日	大阪府河内長野市槇尾山	植物一般 (N)	11月7日	奈良県橿原市	ブナ科植物 (N・G)
6月13日	能勢町三草山	菌類など (S)	11月13～19日	沖縄県八重山郡竹富町 (西表島)	ルリミノキ属の植物 (N)
6月14日	茨城県茂木町	菌類など (S)	11月15～16日	長崎県野茂崎	菌類など (S)
6月20日	奈良県斑鳩町	水生植物 (G)	12月6～16日	ミャンマー連邦アラカン州 サンドウェイ地域	植物一般 (N)
6月25日	大阪府堺市、和泉市信太山周辺		12月13日	兵庫県三田市	水生・湿生植物 (G)
			12月27日	宮津市上世屋	菌類など (S)

資料収集保管事業

1月6日	大阪府大阪市十三区	植物一般 (G)
1月16日	河内長野市岩湧山	菌類など (S)
2月1日	河内長野市汐ノ宮	菌類など (S)
2月13日	茨木市安威	菌類など (S)
2月23～24日	長野県小淵沢	菌類など (S)
2月27～28日	宮津市上世屋	菌類など (S)

■地史研究室

担当者名 樽野…T, 川端…K, 塚腰…Gと略記する。

5月17～18日	兵庫県波賀町	岩石 (K)
10月11日	岸和田市内畑町付近	大阪層群植物化石 (G)
11月28日	泉佐野市上之郷, 滝の池	大阪層群産 植物化石 (G)
12月3日	泉佐野市上之郷, 滝の池	大阪層群産 植物化石 (G)
12月4～6日	熊本県東陽町	中生代放散虫化石・岩石 (K)
12月11～13日	京都府竹野郡丹後町	与謝層群植物化石 (G)

■第四紀研究室

担当学芸員名は石井久夫…IH, 石井陽子…IY, 中条武司…Nと略記する。

5月15日	大阪府吹田市	大阪層群火山灰試料 (IY)
5月22日	太子町・當麻町	現生貝類 (IH)
5月23日	大阪府和泉市・堺市	大阪層群火山灰層試料 (IY)
5月27日	大阪府和泉市・堺市	大阪層群火山灰層試料 (IY)
6月3日	大阪府岸和田市	大阪層群火山灰層試料 (IY)
6月19日	奈良県吉野町	現生貝類 (IH)
9月10日	兵庫県新舞子海岸	現生貝類 (IH)
9月24日	大津市堅田	現生貝類 (IH)
10月22日	三重県大山田村	古琵琶湖層貝化石 (IH)
11月4日	山口県樫野川河口	現生貝類 (IH)
3月4日	阪南2区埋立地干潟	現生・浚渫貝類 (IH)
3月27日	大阪府吹田市	大阪層群火山灰層試料 (IY)

IV. 業務委託による収集

業務名: 淀川産プランクトン (二枚貝グロキディウム幼生) 調査業務

業務概要: 淀川のワンドにおいて、ワンド内部とそれに隣接する本流域に生息する魚類を採集し、それらに付着しているグロキディウム幼生を精査するとともに、ワンドの二枚貝類相、魚類相の基礎資料を得る。

調査水域: 淀川城北ワンドおよび赤川ワンド

調査時期: 2007年1月～3月

V. 現有資料数

■動物研究室 (平成18年度末)

海綿動物	123点
刺胞動物・有櫛動物	673点
扁形・紐形動物	299点
触手動物	135点
環形動物	5,417点
甲殻類	12,000点
軟体動物	28,286点
棘皮動物	2,201点
原索動物	444点
その他無脊椎動物	811点
魚類	31,931点
両生類	21,526点
爬虫類	7,673点
鳥類	6,241点
哺乳類	1,407点
(計)	119,167点

■昆虫研究室 (未登録標本を含む)

標本総数 772,353点 (平成18年度末時点)
〔※720,485点 (平成17年度末時点) + 日本産追加38,275点 + 外国産追加13,593点〕

(日本産 566,978点, 外国産 205,375点)	平成18年度末
日本産	
カワゲラ目	441
カゲロウ目	10,152
トンボ目	17,738
カマキリ目	385

直翅目	11,730	(計)	205,375
ナナフシ目	452	■植物研究室 (平成18年度末, 未登録標本を含む)	
ハサミムシ目	511	種子・シダ植物サク葉標本	249,796
ガロアムシ目	98	蘚類標本	35,130
ゴキブリ目	473	苔類標本	23,052
シロアリ目	92	地衣類標本	353
シロアリモドキ目	25	海藻標本	12,708
チャテテムシ目	335	菌類標本	6,150
アザミウマ目	24	木材標本	1,772
異翅類 (カメムシなど)	28,234	木材プレパラート	1,283
同翅類 (セミなど)	13,722	果実標本	6,071
脈翅目	1,487	(計)	336,315
シリアゲムシ目	1,652	■地史研究室	
トビケラ目	2,164	岩石	1,275点
蛾 (ガ)	31,603	鉱物	2,513点
蝶 (チョウ)	59,818	脊椎動物化石	1,515点
甲虫目	266,121	古生代無脊椎動物化石	1,370点
ハエ目	43,244	中生代無脊椎動物化石	3,090点
ハチ目	43,107	有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
その他の昆虫 (各目)	16,974	放散虫化石	135点
クモなど	16,396	古生代植物化石	185点
(計)	566,978	中生代植物化石	367点
外国産		第三紀植物化石	3,741点
蝶 (チョウ)	80,473	(計)	32,032点
蛾 (ガ)	7,652	■第四紀研究室 (登録済標本数) 平成18年度末	
ハチ目	4,896	人類遺物	29点
ハエ目	3,123	植物化石	17,939点
甲虫	67,110	現生花粉プレパラート	2,114点
脈翅目	51	現生花粉	941(種)
同翅類 (セミなど)	5,986	現生シダ植物胞子	362(種)
異翅類 (カメムシなど)	2,034	無脊椎動物化石	5,564点
直翅型昆虫	3,206	大阪市内ボーリング資料	1,570(件)
トンボ目	1,298	(計)	26,519点 (件・種)
カワゲラ目	66		
その他 (各目)	3,101		
南太平洋学術調査コレクション	4,700		
田中竜三氏コレクション	12,439		
韓国産昆虫コレクション	1,506		
アフガニスタンの昆虫	6,143		
クモなど	1,576		

VI. 収蔵資料目録の発行

■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第39集

竹之内孝一編集「吉良哲明氏蒐集による日本及びその周辺の海産貝類一斧足類・掘足類」全41ページ。 販価800円。 2007年3月31日発行。

VII. 自然史図書の収集

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センタに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に答えている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成18年度(2006年度)も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成18年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、168部で、平成18年度末現在の入力済み収蔵数は12,007部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成18年度に2,695冊、平成18年度末現在の累計148,797冊である(前年度の累計は146,102冊の誤り)。

1. 個人・機関からの受贈(登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略)

- 個人：谷田一三、小澤幸重、松原重敏、および館員(佐久間大輔)
- 民間団体、出版社、企業など：大台ヶ原自然再生推進

計画評価委員会、NPO法人富士の国・学校ビオトープ、伊賀市環境保全市民会議。

- 大学、研究所など：(財)大阪府文化財センター、United States Department of Agriculture Forest Service
- 政府機関及び自治体および関連団体など：宇宙航空研究開発機構、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、(財)三重県環境保全事業団

2. 購入等によるもの

- 図書購入費による購入(登録済みの分のみ)

平成18年度 64冊

- 消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌

外国雑誌 Copeia など 8誌

[平成18年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、岩鉱。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

- 学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌、

Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(日本生態学会誌)

日本生物地理学会(日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(魚類学雑誌)

日本植物学会(Journal of Plant Research)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(藻類)

日本陸水学会(陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本第四紀学会(第四紀研究)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

国際トンボ学会 (ODONATOLOGICA)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集) Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成18年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、2,695冊である。

■研究報告など出版物の配布

2006年度の配布予定内容は以下の通りだったが、発送が遅れ、次年度分とあわせて発送することになった。

	国内		国外	
研究報告60号	485ヶ所	477冊	446ヶ所	449冊
自然史研究	3巻5号、3巻6号			
	358ヶ所	365冊	190ヶ所	193冊
収蔵資料目録	第37集			
	240ヶ所	247冊	55ヶ所	56冊
展示解説	第35回特別展解説書			
	269ヶ所	277冊		
館報	28号	12ヶ所 12部	645ヶ所	653冊

通送便による複数の部数は数えていない。

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。今年度より「自然史講座」を「自然史オープンセミナー」と改称し、より親しみやすいものとした。また、地学関係の行事をより充実したものにするための「ジオラボ」、また、学芸員をより身近に接してもらうために「ミニトーク」を新しく行うことにした。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、いくつかの行事で館外からも講師を招いている。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ちし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、多くの行事でボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年同様、大きく定員を超過している状態が続いている。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」 高槻市

4月23日 申込329名（当選329名） 参加者146名

「海べのしぜん」 岬町長崎海岸

5月28日 申込501名（当選300名） 参加者188名

「ツバメのねぐら」 奈良市

8月12日 申込224名（当選224名） 参加者124名

「バッタのオリンピック」 藤井寺市石川河川敷

10月15日 申込234名（当選134名） 参加者 92名

「木の実と野草であそぼう」 能勢方面

10月29日 申込260名（当選260名） 参加者161名

「化石さがし」 泉佐野市

12月3日 申込312名（当選153名） 参加者110名

1月21日 申込 83名（当選 83名） 参加者 71名

6テーマ7回実施 延べ参加者数892名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度は大和川流域の自然観察会を「大和川シリーズ」（次項参照）として行ったので、例年に比べ回数は少なくなっている。

「摂津峡」 高槻市

9月24日 申込103名（当選57名） 参加者43名

「高台寺山」 豊能町

10月8日 申込34名（当選34名） 参加者30名

2テーマ2回実施 のべ参加者数73名

■大和川シリーズ

昨年度から実施しており、地域自然誌シリーズと同じ目標で、今年度夏季の特別展「大和川の自然」に向けての調査も兼ねた行事。

「寺川」 奈良県桜井市

5月3日 申込36名（当選36名） 参加者30名

「平石峠」 大阪府河南町～奈良県葛城市

6月4日 申込39名（当選39名） 参加者19名

「曾我川」 奈良県高取町～御所市

6月17日 申込32名（当選32名） 参加者23名

3テーマ3回実施 のべ参加者数72名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「淀川で繁殖する鳥」 大阪市

5月21日 申込53名（当選53名） 参加者35名

「京都の植生観察3-鞍馬」 京都市

5月28日 申込54名（当選54名） 参加者33名

「公園や農耕地で繁殖する鳥」 枚方市

6月18日 申込27名（当選27名） 参加者16名

「淀川汽水域の生物」大阪市	6月25日	申込68名(当選68名)	雨天中止	7テーマ10回実施	延べ参加者数185名
「初夏のキノコ」北摂方面	7月16日	申込75名(当選60名)	参加者46名		
「川底の甲虫—ヒメドロムシ」河内長野市	8月6日	申込110名(当選73名)	参加者39名		
「川原の石ころ」	9月10日	申込34名(当選34名)	参加者24名		
「雑木林のキノコ」北河内方面	10月1日	申込37名(当選37名)	雨天中止		
「アカトンボ調べ」高槻市	10月29日	申込52名(当選52名)	参加者24名		
「山田池のカラスの集団ねぐら」枚方市	11月25日	申込30名(当選30名)	参加者19名		
「淀川の冬鳥」大阪市	12月16日	申込15名(当選15名)	参加者12名		
「アカガエルの卵探し」高槻市～島本町	2月11日	申込69名(当選69名)	参加者50名		
				12テーマ10回実施	のべ参加者数298名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査」	4月2日	申込18名(当選18名)	参加者15名		
	以後連続の行事として行い			7月17日	参加者 6名
				9月3日	参加者 5名
				10月29日	参加者 7名
「マツボックリ」	12月17日	申込24名(当選24名)	参加者18名		
「キノコの顕微鏡観察」	1月6日	申込43名(当選43名)	参加者34名		
「イカ・タコの体のつくりを調べよう」	1月14日	申込35名(当選30名)	参加者26名		
「ハンミョウの見分け方」	2月18日	申込36名(当選36名)	参加者24名		
「種と実」	2月25日	申込36名(当選36名)	参加者34名		
「魚のからだ」	3月4日	申込25名(当選18名)	参加者16名		

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月15日	参加者49名
5月20日	参加者55名
6月17日	参加者41名
7月15日	参加者50名
8月19日	参加者37名
9月16日	参加者48名
10月21日	参加者59名
11月18日	参加者52名
12月16日	参加者55名
1月20日	参加者54名
2月17日	参加者24名
3月17日	参加者68名
12回実施	延べ参加者数592名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

花と緑と自然の情報センターのオープンを機に、長居植物園の自然により親しんでもらおうとする行事。季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。毎月第1あるいは第4土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

春の渡り鳥	4月22日	参加者41名
春の渡り鳥2	5月6日	参加者53名
植物園の昆虫	6月3日	参加者80名
カタツムリ	7月1日	参加者24名
チツゼミさがし	8月26日	参加者60名
秋の虫たち	9月2日	参加者37名
秋の渡り鳥	10月14日	参加者53名
ダンゴムシ・ワラジムシ	11月4日	参加者37名
植物園の昆虫	12月2日	参加者44名
冬の鳥の食べ物	1月13日	参加者43名
冬の鳥の食べ物2	2月3日	参加者42名
冬の鳥の食べ物3	3月3日	参加者34名
12回実施	延べ参加者数548名	

■科学映画会

毎土曜（午後2時）、日曜・祝日（午前11時・午後2時）に実施しており、入館者サービスの一環として考えている。当館講堂にて上映。上映とあわせて当館学芸員が簡単な解説を行なっているが、古いソフトなどもあり、再検討ということで、8月中断した。なお、7月、8月はその特別展に向けて当館で製作した、大和川関連の映像をプロモーションとして上映した。

4月	「蝶・蛾の世界」	298名（11回）
5月	「地震と災害」	610名（18回）
6月	「虫の忍者たち・秘伝公開」	780名（12回）
7月	「大和川と生きものたち」	622名（21回）
8月	「大和川と生きものたち」	715名（20回）
		82回実施 延べ観覧者数3,025名

■自然史オープンセミナー

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。本年度から、名称を「自然史講座」から「自然史オープンセミナー」とし、1つのテーマで数名が話をする回も設け、より親しみやすい内容で講演を行う努力をした。当館集会室で原則として毎月第1土曜日の午後3時～4時30分に開催。また、今年度の7～9月は特別展「大和川の自然」に合わせて行われた（8月、9月は複数演者で時間を変更。5ページ参照）。4月1日「自然史博物館のこれまでとこれから」

		山西良平 20名
5月6日	「アサギマダラの移動とマダラチョウ類のDNA解析」	金沢 至 30名
6月3日	「電子の目でミクロの世界をさぐる」	川端清司 29名
7月1日	「大和川：河口から源流まで」	中条武司 36名
8月5日	「大和川のいきものの分布と地史・地学的関係」	和田 岳, 初宿成彦, 中条武司, 石井久夫 80名
9月2日	「大和川のいきものの分布と人間活動の影響」	波戸岡清峰, 金沢 至, 山西良平 60名
10月7日	「ヒシの進化」	塚腰 実 23名
11月4日	「日本の夏を彩る水の精：スイレン科の植物たち」	志賀 隆 31名
12月2日	「貝にはなぜ殻があるのか？」	石田 惣 27名
1月6日	「河内長野の温泉」	樽野博幸 41名
2月3日	「虫の採り方・調べかた」	松本吏樹郎 62名
3月3日	「菌類の進化と多様化」	佐久間大輔 42名

12回実施 延べ参加者数481名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石、岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験や顕微鏡観察など、いろいろな方法を通じて親しんでみましょう。

4月8日	「身近な火山灰，“鹿沼土”のひみつ」	石井陽子 29名
5月13日	「植物の化石」	塚腰 実 70名
6月10日	「黒雲母であそぼう」	石井陽子 28名
7月8日	「ミクロの化石」	川端清司 45名
8月12日	「原始大阪人のゴミ捨て場あさり」	樽野博幸 約50名
9月9日	「原始大阪人のゴミ捨て場あさり」	樽野博幸 約20名
10月14日	「海の貝の化石」	石井久夫 約40名
11月11日	「淡水貝の化石」	石井久夫 20名
12月9日	「植物の化石」	塚腰実 25名
1月13日	「ペットボトルで液状化を実験！」	中条武司 20名
2月10日	「水槽の中に地層を作る」	中条武司 37名
3月10日	「ミクロの化石」	川端清司 46名
		12回実施 延べ参加者数430名

■学芸員ミニトーク

博物館の研究員である学芸員が、各自の行っている研究や自然関係のトピックに関して展示室で短時間の話をした。内容は当日まで未定。話を聞き質問をしてもらって、学芸員をより身近に感じていただいた。

16回実施 延べ参加者数430名

■標本同定会

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。本年度は8月27日に実施した。

同定件数：92件、参加者数：158名。

植物（菌類を含む）	15件	22名
昆虫（クモなど含む）	36件	57名
貝・他の動物	7件	11名

化石	10件	23名
岩石・鉱物	14件	28名
不明	1件	2名
計	92件	158名

過去数年の同定件数と参加者数

平成17(2005)年	113件	156名
16(2004)年	113件	180名
15(2003)年	114件	188名
14(2002)年	109件	178名
13(2001)年	109件	178名
12(2000)年	121件	253名
11(1999)年	147件	245名
10(1998)年	125件	245名

■夏休み自由研究相談会

夏休み、自然をテーマに自由研究に取りみたいが、方法がわからない、対象を決めかねている小・中・高校生に学芸員がアドバイスをを行うもので、2005年度より実施している。

日時：7月23日(日)

場所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター

相談件数：22件(小学生21件、中学生1件)

過去の相談件数

2005年度：36件

2006年度：12件

■講演会

今年度は、特別展普及講演会以外に、学会などと共催した多彩な講演会、シンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評をえた。

1. 特別展普及講演会「大和川水系にすむ絶滅危惧生物とその現状」(財団法人河川環境管理財団と共催)

日時：8月20日(日)

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

「メダカは生き残れるのか？環境破壊・外来種・遺伝子かく乱」

瀬能 宏氏

(神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員)

「貝類の生息環境とその現状」

近藤高貴氏(大阪教育大学教授)

「近畿地方の水辺の植物?現状とその保全」

角野康郎氏(神戸大学理学部教授)

「川虫からみた大和川」

谷田一三氏(大阪府立大学理学部教授)

参加者：119名

2. 甲虫学会講演会「進化は不連続で先細り一虫の世界から生物進化を考える」(日本甲虫学会と共催)

日時：4月9日(日)

会場：自然史博物館 講堂

講師：河野和夫氏(元神戸大学教授)

参加者：61名

3. 地球科学講演会(地学団体研究会大阪支部と共催)

日時：4月23日(日)

会場：自然史博物館 講堂

講師：増田富士雄氏(同志社大学工学部教授)

「長い時間と広い空間からみた現在：気候と環境」

参加者：162名

4. 昆虫分類学会特別講演会「近畿の昆虫相」(日本昆虫分類学会と共催)

日時：10月28日(土)

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

「古代湖=琵琶湖の存在によって特徴づけられる滋賀県の昆虫相」

初宿成彦氏(大阪市立自然史博物館)

「奈良県川上村の昆虫相について」

木村史明氏(橿原市昆虫館)

「紀伊半島の甲虫相」

春沢圭太郎氏(大阪狭山市)

「紀伊半島のレッドデータの昆虫?大切にすべき希少昆虫たち」

宮武頼夫(関西大学)

参加者：115名

5. 特別講演会：養老孟司さんの「ムシの壁」(日本甲虫学会・NPO 大阪自然史センターと共催)

日時：12月10日(日)

会場：自然史博物館 ネイチャーホール

講師：養老孟司氏

参加者：279名

6. 特別講演会「新春ウミウミ大集合!あなたの知らない海の底の動物たち」(大阪湾海岸生物研究会と共催)

日時：1月21日(日)

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

「海底のルミナリエ演出家ウミサボテンとその仲間」

今原幸光氏（和歌山県立自然博物館）

「ウミグモは海にすむグモ？」

高橋芳枝（北海道大学大学院・理・系統進化）

「ウミシダ類の繁殖」

幸塚久典氏（海中景観研究所）

「ウミセミやウミナナフシの仲間（海産等脚類）」

布村 昇氏（富山市科学文化センター）

「ウミクワガタの不思議な生活」

田中克彦氏（電力中央研究所）

参加者：150名

7. 進化学会教育シンポジウム「高校で進化をどのように教えるか？」（日本生物教育会近畿ブロック各支部，日本進化学会と共催）

日時：8月18日（金）

場所：自然史博物館 講堂

講師：中井咲織氏（立命館宇治高校）

池田博明氏（神奈川県立西湘高等学校）

嶋田正和氏（東京大学）

参加者：160名

■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により，博物館の利用機会の増した小中学生を対象に1995年から実施している。展示だけでなく，研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により，博物館と自然史科学に親しみきっかけを作ることを目的としている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」，夏の中学生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され，幅広い応募がある。収蔵施設などの見学の安全確保，実習の進行などには補助スタッフの協力におうところが大きい。

1. 「博物館たんけんコース」

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学とスクラッチカードによる展示見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものと感じ，自然史についての興味を育てることをねらいとしている。1月7，8日の2日間に渡って2回実施した。

申込総数67名

第1回 1月7日（日） 参加者 35名

第2回 1月8日（月・祝） 参加者 32名

延べ参加者数67名

2. 学芸員体験コース（中学生向け）

3日間連続の実習。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき，学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い，この結果をまとめ，展示として作成した。今年度は特別展と関連の深い石川上流（河内長野市）を調査場所とし，「溪流の生きもの」をテーマとして取り組んでもらった。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成，発表することで，自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらおうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

8月23～25日 申込7名（当選7名） 参加者7名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると，小学生連れの親子の参加は多いものの，中学生の参加は少なく，さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく，高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で，高校生は小学生連れの家族や先輩と一緒に行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて，2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始した。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく，クラブ組織とすることによって，学校外の友人と出会う場となることと，継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で，ジュニア自然史クラブの行事を告知し，部員を募集した。また，前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし，申込者にはその後も，行事の案内を直接送ることとした。

2007年3月31日現在の部員数は，89名。

●2006年度の活動内容

当初は，2ヶ月に1度のペースでの行事を，学芸員が企画した。その他に，部員からの希望に応じて，行事を追加した。その結果，2006年度は年間17回の行事を企画し，17回実施した。

部員の参加者数は，のべ241名であった。

「ミーティング」	4月4日	30名	「都市のコケ」		
「能勢初谷」	5月14日	13名	8月3・4日	申込30名(当選30名)	参加者29名
「磯観察」	6月11日	15名	「火山灰室内編2」		
「箕面でサンコウチョウ探し」	7月9日	14名	8月6日	申込12名(当選12名)	参加者10名
「ミーティング」	8月1日	26名	「川原の石ころ・川原の地形」		
「大和川・石川合流で川遊び」	8月14日	13名	10月14日	申込10名(当選10名)	参加者9名
「五月山」	9月10日	8名	「ドングリ1ー見分ける」		
「大阪府立水産試験場見学と磯観察」	9月23日	12名	10月15日	申込7名(当選7名)	参加者7名
「金剛山」	10月9日	9名	「樹脂包埋標本の作製」		
「多田銀山」	11月5日	11名	10月29日	申込13名(当選13名)	参加者9名
「地層観察と化石さがし」	12月10日	18名	「ドングリ2ー食べる」		
「ミーティング」	12月23日	21日	12月1日	申込6名(当選6名)	参加者5名
「鶴殿」	1月5日	8名	「冬越しの虫」		
「昆陽池と伊丹市昆虫館」	2月18日	12名	1月21日	申込10名(当選10名)	参加者10名
「ミーティング」	3月25日	8名			13回実施 延べ参加者数167名
「ミーティング」	3月28日	12名			
「ミーティング」	3月30日	11名			

17回実施 延べ参加者数241名

■教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、本年度からは対象を学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げることとした。

「春の身近な植物」

4月16日 申込30名(当選30名) 参加者21名

「火山灰野外編1」

5月27日 申込12名(当選12名) 参加者7名

「火山灰野外編2」

6月3日 申込12名(当選12名) 参加者10名

「蝶・蛾の幼虫の見分け方」

6月18日 申込13名(当選13名) 参加者11名

「火山灰室内編1」

7月2日 申込15名(当選15名) 参加者10名

「特別展「大和川の自然」の展示を通して
環境学習を考える」

8月2日 申込28名(当選28名) 参加者29名

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の 中から募集を行っている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範囲になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっていることが示される。2006年度は、研修を延べ50回開催し、これを受講した人たちは延べ192名に達する。このことから研修制度は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

■ビオトープ

植物の栽培などに利用されていた博物館の圃場をビオトープとして利用している。当館の周辺地域に生き物の貴重な生息地として、また以前は生息していたが、生息環境の消失によって見られなくなった生物が、再び定着できるように、生き物の暮らしやすい環境作りを目指している。またビオトープにどんな生き物が集まってくるのか継続的に調

查をしている。2006年度は偶数月の第4土曜日に実施した。計7回の実施で、のべ参加人数249名であった。

4月22日	「生き物調べ、畑の整備」	参加者30名
6月24日	「生き物調べ」	参加者73名
8月26日	「ヤゴ調べ、里芋ほり」	参加者46名
10月21日	「長居周辺の自然」	参加者14名
10月28日	「生き物調べ」	参加者61名
12月23日	「冬越しの虫を探そう」	参加者21名
2月24日	「田んぼの整備」	参加者15名
3月25日	「田んぼや畑の整備」	参加者11名
8回実施		のべ参加人数249名

■学校との連携

博物館が集積した標本・資料と学芸員の専門的な知識をもとに、様々な学校と連携したプログラムを実施している。

1. TM ネットワーク (Teacher Museum Network)

先生方と博物館で交流を深め、情報を交換し、交流を深めていくことを目的としたネットワークである。86名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習」の支援プログラムをはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、博物館の行事を案内したTM通信を5号発行した。

2. 博物館での授業 (学芸員によるレクチャー)

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、学校の教員と事前の打合せ・調整の上、設定したテーマに基づく展示の解説、レクチャー、実習などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。学芸員が館外に出向くことは、特別の場合を除いて行っていない(長居植物園は可能)。

学芸員が講師となって行った授業

保育園	1件
小学校	7件
中学校	6件
高校	1件
専門学校・大学	2件
養護学校 中等部	1件 (学校へ出向いて授業を行った)
合計	18件

授業のテーマ例

「昆虫の幼虫の飼育・昆虫の体のつくり」、「外来植物」、「セミとテントウムシ」、「甲虫の形態と進化」、「植物の進化」、「里山」、「走査電子顕微鏡でミクロの世界をのぞ

く」、「鳥の観察」、「自然のめぐみ」など。

3. 博物館で行った教員研修

教員向けプログラム(33ページ参照)を13回開催した。これら以外に、市町の小中学校の理科部会の先生を対象として2件の教員研修を行った。

4. 就業体験(インターンシップ)学生の受入れ

受け入れの運用方針を定め受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。大阪府内の中学校5件(6人)を受け入れた。

5. 博物館資料の貸し出し

授業での教材や先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ類、標本キットを貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載してある。博物館の出版物32件、ビデオ類87件、標本キット11件の貸し出しを行った。

II. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1~12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に、41回の行事を企画し、40回(1回は雨天中止)実施した。延べ約1,500名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。多くの友の会会員が参加して大和川流域の自然に関して調査を行う、友の会行事「プロジェクトY」が昨年に引き続き行われ、その成果は特別展「大和川の自然」に多数盛り込まれた。

■庶務報告

1. 2006年度の友の会会員数は、1,771名(1年会員1,614名、4月入会14名、7月入会(半年会員)91名、10月入会21名、賛助会員31名)であった。2005年度は1678名。

※2006年度賛助会員(敬称略)浅井 彪、浅葉 清、永徳 定、大石 昂、大宮文彦、加藤江理子、河内宏忠、小郷一三、志村研太郎、下原ミサヲ、高橋明子、高橋弘志、田辺一三、田村美美子、西川喜朗、西田良司、野村典子、樋渡諦児、福西勝之、丸山精一、宮武頼夫、

- 山下良寛, 山本 章, 和田 岳, INAX ギャラリー
大阪, 浦野動物病院, (株)新興出版社啓林館, (株)乃村工
藝社, 匿名3名
- 5回の定例評議員会を開催し, 友の会の事業, 庶務な
どについて審議した.
 - 「友の会あり方委員会」を設置し, 経営 WG (ワーキ
ンググループ), 事業 WG の2分科会に別れ, それぞれ
友の会の経営, 事業に関する内容について, 経営 WG
は8回, 事業 WG は15回の議論を行い, 評議員会に諮っ
た.
 - Nature Study のネイチャーサロンの編集会議を18回
開催し, 3月号以外にネイチャーサロンを掲載した.
 - 友の会会員の入会時期をこれまでの2回(1月, 7月)
から4回(1月, 4月, 7月, 10月)にした.

■事業報告

1. 刊行・製作

①Nature Study 誌52巻1号(通巻620号)~12号(通巻
631号)を発行した. また, Nature Study 9月号よ
り, 本文の文字を1ポイント大きくし(9ポイント),
表紙などの構成を変更した. また, 2月号の付録とし
て「友の会のしおり」を発行した.

②自然観察地図 vol. 1 北近畿編, vol. 2 南近畿編を発
売開始した.

③自然観察地図大阪府内版の改定および編集作業を進め
た.

2. 特別展「大和川の自然」およびその関連行事を大阪市
立自然史博物館などと共催した. この特別展では, 友の
会会員が調査に参加した「プロジェクト Y」の成果が
多数盛り込まれた.

3. 友の会会員, 学芸員の交流推進のため, インターネッ
ト上にソーシャルネットワークワーキングサービス mixi (ミ
クシィ) のサービスを利用したコミュニティを立ち上げ
た.

4. 行事を41回企画し, 40回実施した(1回は雨天中止).
延べ約1,500名の参加があった. 以下に行事名と参加者
数を記す.

①友の会総会2006 1月29日(日) 183名

②プロジェクト Y

日本有数の汚い川として知られる大和川の生物や環
境を調査しようと, 友の会会員150人以上によって調
査を行った. 2006年度開催予定の特別展「大和川の自

然一きたない川?にもこんなんいるで」を共催し,
プロジェクト Yでの調査成果を発表した(中条).

4月8日(土) 成果発表会 32名

4月30日(日) コシアカツバメ分布調査 18名

5月5日(金・祝) 社寺林調査 15名

6月3日(土) 水草調査 6名

③特別展「大和川の自然」関係(共催・協力)

7月28日(金) プレスレビュー 26名

8月5日(土) オープンセミナー 80名

8月5日(土) 友の会の夕べ 6名

8月20日(日) 講演会 119名

9月2日(土) オープンセミナー 60名

④友の会合宿

・宍粟市波賀町

7月15日(土)~17日(月・祝) 31名(+世話役5名)

・昆虫合宿曾爾高原

8月19日(土)~21日(月) 15名(+世話役4名)

・揖保川河口と新舞子干潟

9月30日(土)~10月1日(日) 28名(+世話役6名)

⑤鞆公園のセミのぬけがら調査

9月3日(日) 105名(世話役含む)

⑥月例ハイキング

1月15日(日) 上町台地 67名

2月19日(日) 奥水間から稲谷 33名

3月19日(日) 城ヶ崎海岸の海藻試食 62名

4月16日(日) 横谷から滝畑へ 38名

5月21日(日) 生駒 くさかー辻子谷 54名

6月18日(日) 三草山 20名

(トラスト協会と共催, トラスト側は43名)

7月16日(日) 箕面 48名

8月20日(日) 能勢初谷溪谷 39名

9月17日(日) 忍辱山 26名

10月15日(日) 信太山 68名

11月「秋まつり」のため実施せず

12月17日(日) 片男波 雨天中止

⑦秋まつり 11月12日(日) 80名

⑧鳥類フィールドセミナー(募集は4月のみ)

4月16日(日) 27名

4月29日(土・祝) 26名参加

5月13日(土) 11名

6月10日(土) 18名

7月30日(日) 18名

10月7日(土)	21名
11月18日(土)	10名
12月9日(土)	8名
⑨裏庭ピオトープの日(偶数月実施)	
2月25日(土)	30名
4月22日(土)	30名
6月24日(土)	73名
8月26日(土)	46名
10月21日(土)	14名
10月28日(土)	61名
12月23日(土)	21名

■役員

会長：西川喜朗

副会長：谷田一三、山西良平

評議員：板本瑤子、梅原徹、浦野信孝、桂孝次郎、河合正人、田代貢、中井紗織、永井敦子、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、春沢圭太郎、堀田満、道盛正樹、村井貴史、山下裕子、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

Ⅲ. 博物館実習生の受け入れ

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の39名の学生を受け入れた。

1. 一般実習コース

夏期：8月30日～9月3日

国村知・北辻類(京都府立大)、田中沙耶・南加容(近畿大)、大橋敦史・乾隆帝(九州大)、北野尋美(九州東海大)、林裕希(滋賀県立大)、清岡李江、尹智博(神戸芸術工科大)、赤松真実・柴亜矢子(神戸大)、鎌田麻里(大阪教育大)、岡村織絵・長谷川裕子(追手門学院大)、實理恵子(東京大)、吉村悠香・宮本由賀(奈良女子大)

秋期：10月25日～29日

和田行弘(愛媛大)、豊田真美子(京都府立大)、佐田信太郎・山田華織(京都教育大)、荒井弥佳(近畿大)、越智知美(広島女学院大)、福本奈由、中岡礼奈、狩谷千恵(神戸大)、吉田あかね、山本純平(大阪芸術大)、秦朋美、久場由桂利、人見奈緒子(大阪女子大)、金津知陽・濱崎朝美(追手門学院大)

2. 普及教育専攻コース

夏期：8月12日・13日、23日～25日

森田早智(京都橘大)、浦恵里香(近畿大)、芝田千尋・吉見知恵(大阪教育大)、西牟田梨恵(福岡大)

平成18年度(2006年度)普及行事, 特別展, 特別陳列, 友の会行事一覧表(その1)

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かんさつ会	23. レンゲ畑	28. 海べのしぜ ん			12. ツバメのね ぐら		15. バッタのオ リンピック 29. 木の美と野 草		3. 化石さがし 21. 化石さがし			
地域自然誌 シリーズ						24. 摂津峡						
大和川 シリーズ		3. 寺川	4. 平石峠 17. 草我川									
テーマ別 自然観察会		21. 淀川の鳥1 (大坂市) 28. 鞍馬の福生 25. 淀川の汽水 域(中止)	18. 公園・農耕 地の鳥 (秋方) 25. 淀川の汽水 域(中止)	16. 初夏のキノ コ(摂津)	6. 川底の甲虫 (滝畑)	10. 川原の石こ ろ(石川)	1. 雑木林のキノ コ(中止) 29. アカトシボ (高槻市)	25. カラスの噂 (枚方)	16. 淀川の鳥2 (大坂市)	11. アカガエル の卵 (高槻方面)		
室内実習	2. 鳥の調査			17. 鳥の調査	3. 鳥の調査	3. 鳥の調査	1. 鹿沼土 (中止) 29. 鳥の調査	17. マツボックリ	17. マツボックリ	6. キノコの顕 微鏡観察 14. イカ・タコ	18. ハンミョウウ 25. 種と実	4. 魚のからだ
野外実習												
植物園案内	15	20	17	15	19	16	21	18	16	20	17	17
植物園案内 動物・昆虫	22.	6. 春の渡り鳥	3. 昆虫	1. カタツムリ	26. チッチゼミ	2. 秋の虫	14. 秋の渡り鳥	4. ダンゴムシ	2. 昆虫	13. 冬の鳥の食 べ物1	3. 冬の鳥の食 べ物2	3. 冬の鳥の食 べ物3
自然史 オープンセミナー	1	6	3	1. 大和川関連	5. 大和川関連	2. 大和川関連	7	4	2	6	3	3
学芸員 トーク	22	27	24	22. 29	12. 19. 26	9. 16	28	25	23	27	24	24
ジオラマ	8.	13. 植物化石	10. 黒雲母	8. ミクロの化 石	12. 原始大坂ゴ ミ捨て場 (大和川)	9. 原始大坂ゴ ミ捨て場	14. 海貝化石	11. 淡水貝化石	9. 植物化石	13. 液状化	10. 水槽地層	10. ミクロの化 石
科学映画会 (土・日)	11回実施 (蝶・蛾)	18回実施 (地震と災害)	12回実施 (虫)	21回実施 (大和川)	20回実施 (大和川)							
ジュニア 自然史クラブ	4. ミーティング	14. 能勢初谷	11. 磯	9. 箕面	1. ミーティング 14. 大和川・石 川	10. 五月山 府立水産試 験場と磯	9. 金剛山	5. 多田銀山	10. 地層観察・ 化石探し	18. 鞠殿	18. 琵琶湖	20. ミーティング
教員・観察会 指導者向け 支援プログラム	16. 春の植物	27. 火山灰野 外1	3. 火山灰野 外2 18. 蝶蛾の幼虫	2. 火山灰野 外1 3. 火山灰野 外2 4. 都庄のヨケ 6. 火山灰野 外2	2. 環境学習 3. 都庄のヨケ 6. 火山灰野 外2	11. 火山灰野 外3(中止) 3. 火山灰野 外3(中止) 26. 火山灰野 外3(中止)	14. 川原の石こ ろ(中止) 15. ドングリ1 29. 樹脂包埋	1. ドングリ2 21. 冬越しの虫	1. ドングリ2 21. 冬越しの虫			11. 火山灰 お手紙 (中止)
ビオトープの日	22	24	24	26	26	26	21. 28	23	23	24	24	25
ワークショップ	22. 23. 化石ブック	27. 28. むしムシ親子	3. 4. むしムシ親子	16. 17. 川をつくろ う 29. 30. いきものぬめ り	5. 6. いきものぬめ り 12. 13. 19. 20. 26. 27. やまとがわ	29. 30. いきものぬめ り	14. 15. 21. 22. りゅうぐうの つかい	25. おおさかの しぜん	16. 17. ナウマンゾウ カレンダ ー	6. 14. ナウマンゾウ カレンダ ー	11. 12. きょうりゅう はりえ	10. 11. きょうりゅう はりえ
特別展					7/29← 大和川展 →9/18							
特別行事				23. 自由研究 相談会	23-25. ドキド キ中学生 懇話会 27. 概本同定会							7-8. ドキド キ小学生

平成18年度（2006年度）普及行事，特別展，特別陳列，友の会行事一覧表（その2）

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講演会など	9. 甲虫学会講演会 23. 地球科学講演会				18. 進化学会教育シンポジウム 20. 特別展記念講演会		28. 昆虫分類学会講演会		10. 養老孟司氏講演会	特別講演会「海の底の動物」		
友の会の行事	8. プロジックトY発表会 16. 29. 鳥フィールドセミナー 30. コンアガツバマ研修	13. 鳥類フィールドセミナー	3. 水草研修 10. 鳥類フィールドセミナー	15-17. 波賀町合宿 30. 鳥類フィールドセミナー	5. 友の会の夕会 6. 滝畑ヒメドロムシ 19-21. 昆虫合宿	3. セミの抜け殻	9/30-10/1. 新舞子干潟合宿 7. 鳥類フィールドセミナー	12. 秋祭り 18. 鳥類フィールドセミナー	9. 鳥類フィールドセミナー	28. 友の会総会		
友の会月例ハイキング	16. 滝畑	21. くさかー厨子谷	18. 三草山	16. 箕面	20. 初谷	17. 忍駱山	18. 信太山		17. 片男波（中止）	21. 笹部	18. 三川合流	21. 海藻を食べる

その他の事業

子どもの居場所事業

平成18年度は「子どもの居場所事業」の最終年にあたり、大阪市立自然史博物館では大阪自然史センター関係者を中心に結成された「ユースナチュラリスト支援委員会」によって「マンスリーワークショップ」と、「探検ワークシート」を実施した。事業は全体として、1) こどもたちに、博物館の魅力をつたえて楽しませ、安心・安全な居場所として博物館に繰り返し訪れてもらうこと、2) そのために立地も含めた博物館の魅力を掘り起こし、伝えるためのプログラム開発をすることを目的としている。もちろん、子どもを中心にした取り組みではあるが、そこから親子連れ、周りの観覧者も含めて楽しめる事は大事な留意点だ。また、他のどこでもない博物館オリジナルなプログラム展開を重視する意味からも、博物館の展示物や収蔵標本（とそこに介在する学芸員の研究）をよりよく理解してもらうことがプログラムの重要なメッセージとなっている。

実施にあたってはコーディネーター・ファシリテータが重要な役割を果たし、展示を「見る」だけでなく、さまざまな形で「楽しみ」、「考える」という新しい博物館の楽しみ方を提案できたように思う。ファシリテータによる子どもへのガイダンスも、改良を積み重ねており、「子どもの居場所」事業終了後も、ノウハウの継承に向けて、大阪自然史センターを受け皿に事業継続の可能性を検討中である。

ユースナチュラリスト支援委員会 代表 千地万造

事業総額：3576千円

「マンスリーワークショップ事業」

プログラム名	(実施日)
化石探検ブック	(4. 22, 4. 23)
びっくり変態ムシムシ	(5. 27, 5. 28, 6. 3, 6. 4)
川を作ろう	(7. 16, 7. 17)
いきものぬりえ	(7. 29, 7. 30, 8. 5, 8. 6)
ぶらぶら大和川	(8. 12, 8. 13, 8. 19, 8. 20, 8. 26, 8. 27)
りゅうぐうのつかい	(10. 14, 10. 15, 10. 21, 10. 22)
見つけた！大阪のしぜん	(11. 25, 11. 26)
ナウマンゾウカレンダー	(12. 16, 12. 17, 1. 6, 1. 14)
きょうりゅうはりえ	(2. 11, 2. 12, 3. 10, 3. 11)

のべ合計参加者数 1,620人

(見学者1,083人、合計2,703人)

「探検ワークシート事業」

ファシリテータ配置日 土・日・祝など延べ110日
のべ参加者数13,680人

芸術拠点形成事業

平成18年度芸術拠点形成事業大阪市実行委員会として当館も参加した。今年度は、多様な博物館・美術館が存在する当市の特性を活かし、一つの話題・美術品から、歴史・科学・自然、さらには異なる美術品といった多様な世界へと展開できる仕組みを作り、「おおさか ふらっとミュージアム」を作成した。

当館からは佐久間が計画策定に参画するとともに、主にTM委員会を中心に利用する学校の調査対応などを行った。作成にあたっては、大阪自然史センターがデザイン・システム設計に参画し、各学芸員が記事執筆を行った。

詳しくは同実行委員会の報告書を参照いただくとともに、事業成果としてのサイト

(<http://www.museum.city.osaka.jp/flat/>)

をご参照いただきたい。

庶 務

I. 沿 革

- 昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設
昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定
昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）
昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）
昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）に移転
昭和33年1月13日－開館
昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31 退任）
昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）
昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織
昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織
昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工
昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工
昭和48年4月1日－旧館閉館
昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布
昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行
昭和49年4月27日－開館
昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－61. 3. 31 退任）
昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定
昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定
昭和61年3月31日－常設展更新業務完成
昭和61年4月1日－新装開館
昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31 定年退職）
昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31 退任）
平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31 退任）
平成2年度 ー文化施設整備構想調査
平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31 退任）
柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31 定年退職）
平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31 退任）
平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）
平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
平成8年度 ー展示更新基本設計及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31 退任）
平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任（13. 3. 31 退職）
平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工
平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工
平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）
平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
花と緑と自然の情報センター開館
平成17年4月1日－山西良平 館長に就任
平成18年3月1日－本館一部リニューアルオープン

平成18年4月1日－指定管理により(財)大阪市文化財協会
が指定管理者となる

平成19年3月24日－第5展示室第一期リニューアルオー
プン

社会教育課へ転出
宮崎 正和 住吉区役所へ転出
泉澤 英男 城東区役所へ転出
和田 知 教育委員会事務局整備
課へ転出

平成19年3月31日 阪口 忠義 退職

II. 組 織

■職員数（平成18年4月1日現在）計22名



■職員名簿（平成18年4月1日現在）

職 種	氏 名	職 種	氏 名
館 長	山西 良平	主任学芸員	波戸岡清峰
副館長兼庶務課長	黒崎 法男	学芸員(地史)	塚腰 実
管 理 係 長	木全 達男	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
係 主 査	美川 真一	学芸員(動物)	和田 岳
嘱 託 職 員	日達 昇	学芸員(植物)	佐久間大輔
〃	三井 啓正	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	吉田 義昭	学芸員(四紀)	中条 武司
学 芸 課 長	樽野 博幸	学芸員(昆虫)	松本史樹郎
研究副主幹	川端 清司	学芸員(植物)	内貴 章世
主任学芸員	石井 久夫	学芸員(動物)	石田 惣
〃	金沢 至	学芸員(植物)	志賀 隆

■人事異動

平成18年4月1日 黒崎 法男 ゆとりとみどり振興局
天王寺動植物公園事務
所から転入
樽野 博幸 学芸課長に就任
美川 真一 教育委員会事務局中央
青年センターから転入
石田 惣 新規採用
志賀 隆 新規採用
米野 恵子 教育委員会事務局文化
財保護課へ転出
山田 浩美 〃
森田 智之 〃
山岡 祐二 〃
高芝 義幸 〃

III. 庶務日誌

■平成18年度 博物館関係者来訪

18. 9. 27 韓国国立文化研究所
博物館の視察
19. 3. 7 石川県立自然史資料館
展示室・収蔵庫の視察
3. 10 篠山チルドレンズミュージアム
展示とワークショップの視察
3. 15 群馬県立自然史博物館
学校教育との連携、教育普及事業の概要、
展示の視察

■館長受嘱委員（～平成19年3月31日）

- 財団法人 大阪21世紀協会 評議員
平成17年6月23日～平成20年2月13日
兵庫県立人と自然の博物館 協議会委員
平成17年12月17日～平成19年10月7日
全国科学博物館協議会 理事
平成18年4月1日～平成19年3月31日
財団法人 河川環境管理財団 淀川環境委員会委員
平成18年4月25日～平成19年3月31日
財団法人 日本博物館協会 理事
平成18年6月16日～平成19年3月31日
国土交通局近畿地方整備局
大阪湾岸道路西仲部環境影響評価技術検討委員会委員
平成18年6月30日～平成19年3月31日
財団法人 大阪科学技術センター 評議員
平成18年7月1日～平成19年3月31日
財団法人 大阪市文化財協会 理事
平成18年7月1日～平成19年3月31日
財団法人 日本博物館協会「博物館経営・運営の指標
(ベンチマーク)づくり」委員
平成18年8月31日～平成19年3月31日

IV. 決算

■平成16年度～平成18年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成16年度 決 算	平成17年度 決 算	平成18年度 決 算
歳 入	第 1 部	入 館 料 ほ か	16,036	19,067	16,527
		雑収（展示解説等売却代ほか）	759,327	1,709	894
		国 庫 補 助 金	0	0	0
		第 1 部 計	17,451	20,776	17,421
	第 2 部	府 補 助 金	0	0	0
		第 2 部 計	5,712	0	0
		第 1 部 ・ 2 部 合 計	781,075	20,776	17,421
歳 出	第 1 部	常 設 展 覧 事 業	2,371	2,206	1,896
		特 別 展 覧 事 業	7,405	5,176	2,789
		調 査 研 究 事 業	11,931	12,081	10,679
		資 料 収 集 保 管 事 業	4,221	2,757	2,470
		普 及 教 育 事 業	2,211	1,838	1,772
		充 実 活 性 化 事 業	3,659	2,556	2,874
		一 般 維 持 管 理 費	114,590	104,331	321,009
		小 計	146,388	130,945	343,489
	第 2 部	館 蔵 品 整 備 事 業	0	0	0
		寄 贈 標 本 整 理 事 業	3,945	0	0
		デジタルミュージアムの 推 進 事 業	21,275	0	0
		施 設 整 備 事 業 等	0	0	0
		収 蔵 庫 設 備 整 備 事 業	1,777	0	0
		小 計	26,997	0	0
	第 1 部 ・ 第 2 部 合 計	173,385	130,945	343,489	

V. 入館者数 (平成18年度)

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体				個 人				
	大 人	高・大	大 人	高・大	幼・保 育園等	小学生	中学生	養護学 校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他		
(18) 4	5,738	118	189	38	302	5,636	0	42	356	5,793	2,807	21,019	26
5	8,217	256	170	258	1,770	14,200	559	265	1,187	6,047	2,571	35,500	27
6	3,830	175	108	137	761	899	509	140	259	3,202	1,356	11,376	26
7	3,804	576	43	275	420	11	186	23	53	3,963	976	10,330	26
8	6,486	2,168	80	29	109	0	22	43	16	8,043	1,461	18,457	27
9	3,562	231	47	27	167	933	0	6	82	3,254	1,325	9,634	26
10	3,585	104	172	203	1,860	7,351	110	171	2,123	3,436	1,836	20,951	26
11	2,636	150	109	613	1,155	1,694	1,282	72	336	3,193	2,088	13,328	26
12	1,190	309	6	66	0	247	0	49	44	1,530	632	4,073	23
(19) 1	2,302	165	14	0	129	269	80	0	51	2,239	709	5,958	23
2	2,780	77	14	74	199	166	349	80	87	2,804	881	7,511	24
3	4,370	132	473	0	1,177	94	378	14	195	4,598	1,193	12,624	23
計	48,500	4,461	1,425	1,720	8,049	31,500	3,475	905	4,789	48,102	17,835	170,761	303

■無料団体観覧内訳 (平成18年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園・保 育 所	105	5,645	42	2,404	147	8,049
小 学 校	143	11,090	226	20,410	369	31,500
中 学 校	31	1,973	39	1,502	70	3,475
養 護 学 校・他	11	195	5	126	16	321
福 祉 施 設	19	435	9	149	28	584
団 体 引 率 者	0	2,420	0	2,369	0	4,789
計	309	21,758	321	26,960	630	48,718

庶 務

■特別展入館者数（平成10年度～平成18年度）

種別 年度	個 人				団 体			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大 人	高・大	優待・ 他無料	中 学 生 以下無料	大 人	高・大	中 学 生 以 下他無料				
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8.1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～ 9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～ 5.27	28	50周年だよ！標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～ 7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～ 9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～ 1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあい ワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～ 3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～ 5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～ 9.1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見る「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～ 8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～ 2.1	49	親子で遊ぶ木とのふれあい ワールドパート2
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4.1～ 5.30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉 の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～ 9.5	44	貝—その魅力とふしぎ
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～ 9.4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成18年度 31件

年月日	団 体 名	人数
18. 6. 11	大阪石友会 川端	
18. 6. 13	西淀川養護学校	
18. 6. 14	文化財保護課 川端	
18. 6. 25	セミセミ団	7
18. 7. 2	大阪地学団体研究会大阪支部 川端	
18. 7. 29	日本甲虫学会	6
18. 8. 2	文化財保護課 川端	
18. 8. 26	日本甲虫学会	6
18. 9. 2	大阪鳥類研究グループ 和田	
18. 9. 9	ハチ研究会 松本	
18. 9. 22	大阪地学団体研究会 塚腰	
18. 10. 1	日本甲虫学会	10
18. 10. 7	ハチ研究会 松本	
18. 11. 11	ハチ研究会 松本	
18. 11. 18	青少年のための科学の祭典	
18. 11. 19	青少年のための科学の祭典	
18. 11. 23	青少年のための科学の祭典	
18. 11. 25	青少年のための科学の祭典	
18. 11. 26	青少年のための科学の祭典	
18. 12. 7	西日本会議 波戸岡	

年月日	団 体 名	人数
18. 12. 9	近畿多毛類研究会	
18. 12. 10	日本甲虫学会	10
18. 12. 13	日本甲虫学会	6
18. 12. 17	ハチ研究会 松本	
18. 12. 23	野尻湖花粉グループ	
18. 12. 24	野尻湖花粉グループ	
18. 12. 25	野尻湖花粉グループ	
18. 12. 27	西山アサギマダラ検討会	10
19. 1. 20	友の会評議員会	
19. 2. 4	近畿地学会	
19. 2. 11	近畿植物同好会	
19. 2. 7	ハチ研究会 松本	
19. 2. 8	大阪石友会	
19. 2. 24	大阪地学団体研究会 川端	
19. 3. 4	大阪鳥類研究グループ 和田	
19. 3. 17	昆虫情報処理研究会	10
19. 3. 24	関西トンボ談話会	7
19. 3. 27	西日本データベース	
19. 3. 30	世界陸上 和田	

■集會室 平成18年度 37件

年月日	団 体 名	人数
18. 4. 9	甲虫学会	34
18. 4. 30	野尻湖友の会 樽野	
18. 5. 4	野尻湖花粉グループ 樽野	
18. 5. 5	野尻湖花粉グループ 樽野	
18. 5. 7	野尻湖花粉グループ 樽野	
18. 5. 14	日本鱗翅学会	30
18. 5. 24	保全協会市民大学 和田	
18. 5. 31	幼児教育センター研修 松本	
18. 7. 2	大阪地学団体研究会大阪支部	15
18. 7. 11	シニア自然大学	
18. 7. 19	グローバル環境文化研究所 樽野	
18. 7. 21	大和川河川事務所 和田	
18. 8. 22	シニア自然大学	
18. 9. 3	昆虫情報処理研究会	
18. 10. 1	甲虫学会	30
18. 10. 14	地域自然ボランティア養成講座	
18. 10. 15	大阪鳥類研究グループ 和田	
18. 10. 20	シニア自然大学	
18. 10. 27	和泉市立北部総合福祉会館	
18. 10. 28	昆虫分類学会	25
18. 11. 17	シニア自然大学	
18. 11. 19	青少年のための科学の祭典ワークショップ	15
18. 11. 25	青少年のための科学の祭典	65
18. 11. 26	青少年のための科学の祭典	60
18. 12. 3	関西トンボ談話会	
18. 12. 6	電気主任技術者ワーキング会議 美川	
18. 12. 10	甲虫学会	35
18. 12. 23	大阪地学団体研究会	10
19. 1. 14	野尻湖友の会 樽野	
19. 1. 21	近畿植物同好会	
19. 1. 30	消防訓練	
19. 2. 4	関西トンボ談話会	
19. 2. 18	大阪湾海岸生物研究会総会	
19. 3. 4	近畿植物 内貴	
19. 3. 24	ハチ研究会	
19. 3. 27	西日本データベース	40
19. 3. 30	世界陸上	10

■実習室 平成18年度 34件

年月日	団 体 名	人数
18. 4. 5	近畿植物	30
18. 4. 7	ハチ研究会	10
18. 4. 16	菌類談話会	25
18. 4. 19	近畿植物	30
18. 4. 26	近畿植物	20
18. 5. 13	縄文文化研究会	14
18. 5. 17	近畿植物	20
18. 5. 20	ハチ研究会	8
18. 5. 24	近畿植物	25

年月日	団 体 名	人数
18. 5. 31	近畿植物同好会	25
18. 6. 7	近畿植物同好会	25
18. 6. 10	ハチ研究会	14
18. 6. 11	昆虫情報処理研究会	15
18. 6. 14	松原市理科研修学芸員講義 松本	
18. 7. 19	シニア自然大学	36
18. 8. 2	シニア自然カレッジ	25
18. 10. 4	シニア自然カレッジ 松本	
18. 10. 12	甲虫学会 初宿	
18. 11. 23	青少年のための科学の祭典	45
18. 11. 24	青少年のための科学の祭典	15
18. 11. 25	青少年のための科学の祭典	70
18. 11. 26	青少年のための科学の祭典	75
18. 12. 2	近畿植物	20
18. 12. 9	昆虫情報処理研究会	15
18. 12. 10	野尻湖友の会 樽野	
19. 1. 16	シニア自然大学	35
19. 1. 20	ハチ研究会	10
19. 1. 23	シニア自然大学	35
19. 2. 4	大阪自然環境保全協会	
19. 3. 10	野尻湖昆虫	8
19. 3. 11	野尻湖昆虫	8
19. 3. 12	野尻湖昆虫	7
19. 3. 3	アサギマダラを調べる会	25
19. 3. 18	双翅目談話会	36

■講堂 平成18年度 14件

年月日	団 体 名	人数
18. 4. 2	シニア自然大学	250
18. 5. 13	地球環境大学	220
18. 5. 20	地球環境大学	220
18. 6. 3	地球環境大学	220
18. 6. 17	地球環境大学	220
18. 7. 1	地球環境大学	220
18. 8. 18	生物教育研究会	150
18. 9. 2	地球環境大学	220
18. 9. 15	シニア自然大学	85
18. 9. 16	地球環境大学	220
18. 10. 7	地球環境大学	220
18. 10. 21	地球環境大学	220
19. 3. 3	ナイトミュージアム	
19. 3. 11	シニア自然大学	240

■ネイチャーホール 平成18年度 5件

年月日	団 体 名	人数
18. 11. 22	財団法人 日本科学技術振興財団	
18. 11. 23	財団法人 日本科学技術振興財団	650
18. 11. 24	財団法人 日本科学技術振興財団	
18. 11. 25	財団法人 日本科学技術振興財団	2250
18. 11. 26	財団法人 日本科学技術振興財団	2250

VII. 施 設

自然史博物館本館

■ 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 6,743.68㎡

■ 建築面積 4,392.67㎡

■ 延床面積 7,066.01㎡

■ 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	
			(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第4展示室	100.00㎡	4.20m	
第5展示室	260.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	
			(平均)
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	

実習室	96.76㎡	2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡
館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
更衣室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホールエレベーター	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
	総計	7,066.01㎡

■ 階数別面積

地階	855.07㎡	3階	550.95㎡
1階	3,178.35㎡	屋階	76.93㎡
2階	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講堂	266人	集会室	48人
会議室	22人	実習室	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階	3人		

■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費 10億1,000万円
(建設工事費) 7億9,500万円

・本体工事（㈱竹中工務店）	4億9,200万円	（普及教育用施設）	計	256.08㎡	
・付帯工事	3億 300万円	自然の情報コーナー		111.11㎡	5.00m
（設計監督委託料）	2,700万円	ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
（その他）	3,800万円	実習室		105.75㎡	3.00m
事務費、移転費、公園樹木移設工事費		（管理用施設）	計	937.36㎡	
ネットフェンス設置工事費等		総合監視センター		32.78㎡	5.60m
（内部設備費）	1億5,000万円	空調機械室		116.93㎡	6.50m
・第1展示室ディスプレイ（㈱日展）	2,200万円	機械室		722.99㎡	5.60m
・第2展示室ディスプレイ		E V機械室		49.08㎡	5.60m
（㈱乃村工芸社）	2,500万円	技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
・第3展示室ディスプレイ（㈱丹青社）	2,100万円	（共通部分）	計	431.30㎡	
・オリエンテーションホールディスプレイ		地下1階廊下		28.74㎡	3.00m
（㈱電電広告）	600万円	1階廊下		48.30㎡	3.00m
・展示品購入費	3,200万円	1階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
・庁用器具、調査、研究用機器、		2階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
資料保管用物品等	4,400万円	プロムナード		28.00㎡	5.00m
■ 国庫補助金・起債		2階便所		57.02㎡	2.50m
・国庫補助金	3,000万円（47.10.13付交付決定）	E V室		47.52㎡	2.90m
・起債	3億8,762万円（47. 8.25付交付決定）	トラックヤード		88.13㎡	
		階 段		103.18㎡	
				総計	5,000.00㎡

花と緑と自然の情報センター

■ 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 1,203.81㎡

■ 建築面積 3,507.00㎡

■ 延床面積 5,000.00㎡

■ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

地下1階、地上2階塔屋付建物

■ 主要各室面積・天井の高さ

（展示用施設） 計 1,403.763㎡
（天井の高さ）

大阪の自然誌 638.82㎡ 4.20m

ネイチャーホール 764.95㎡ 7.00m

（研究用施設） 計 1,971.50㎡

準備室兼置場（1） 47.99㎡ 4.00m

準備室兼置場（2） 68.34㎡ 4.00m

冷蔵庫室 21.99㎡ 5.00m

資料前処理室 20.14㎡ 4.00m

一般収蔵庫 748.34㎡ 5.00m

特別収蔵庫 688.22㎡ 5.00m

液浸収蔵庫 323.48㎡ 5.00m

前室（1） 36.80㎡ 4.00m

前室（2） 16.20㎡ 4.00m

■ 階数別面積

地階……2,754.07㎡

1階……1,203.81㎡

2階…… 993.04㎡

3階…… 49.08㎡

■ 工 期 平成10年12月～平成13年3月

■ 総事業費 41億6,665万円

（建設工事費） 24億4,558万円

（設備工事費） 11億9,650万円

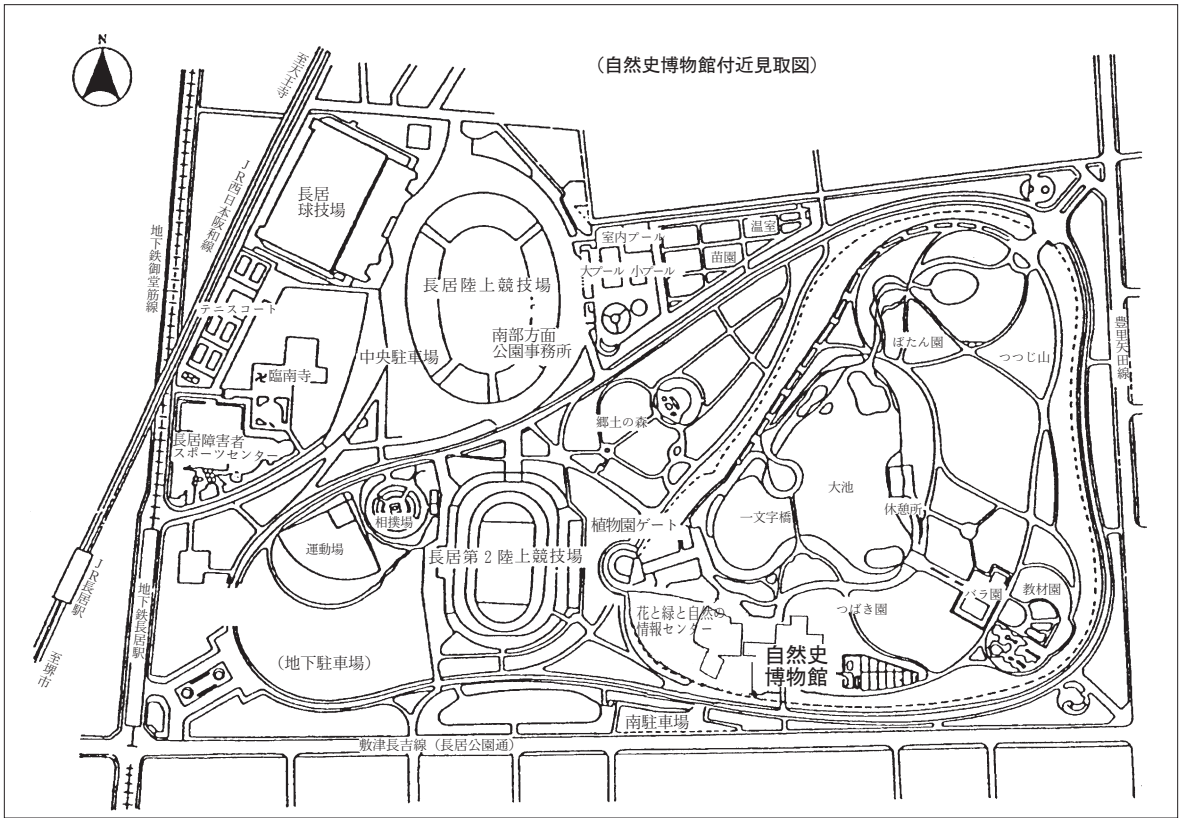
（設計監督委託料） 5,751万円

（外溝工事費他） 4億6,706万円

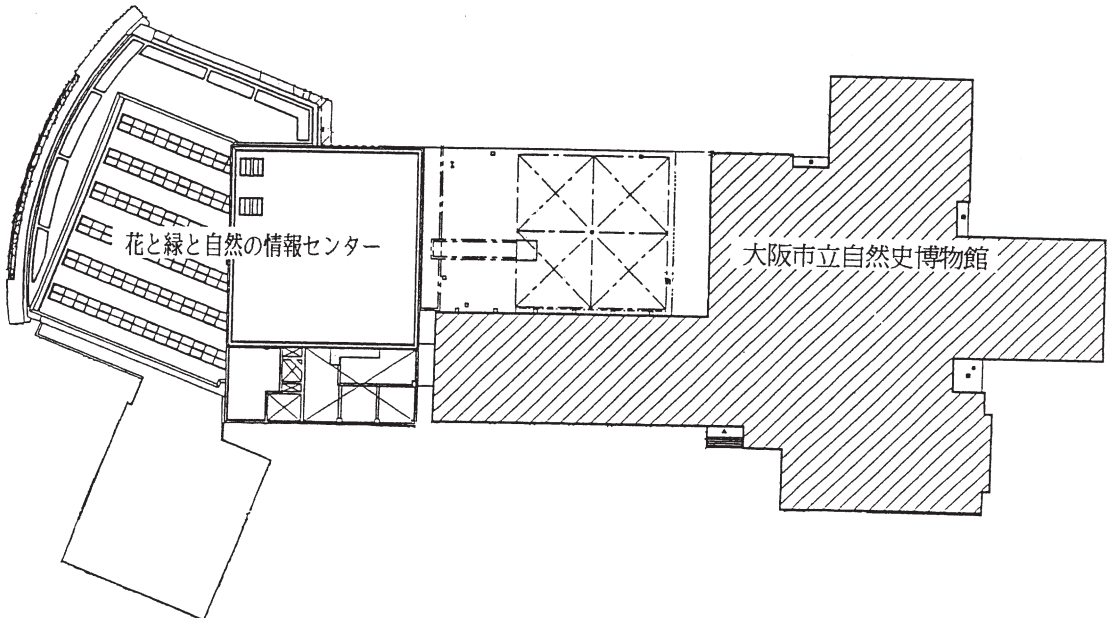
■ 起債等

・起債 34億7,477万3千円

・雑収（宝くじ協会） 3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

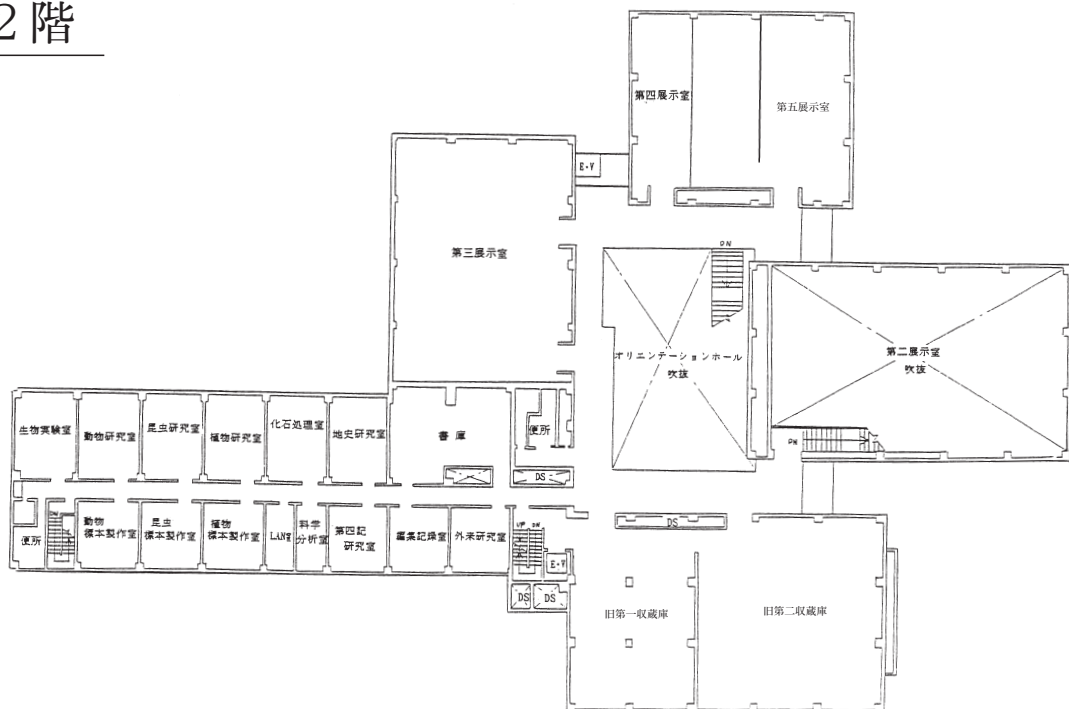


1階

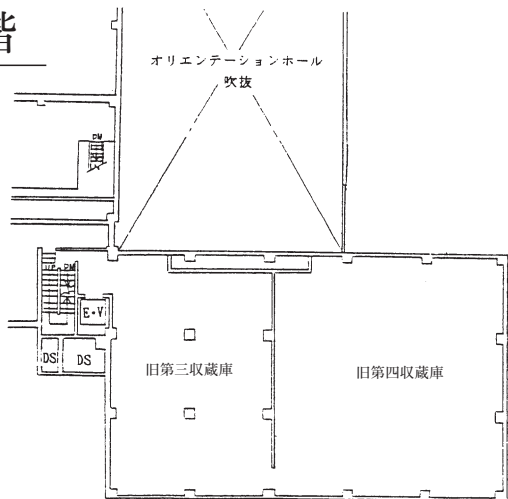
(自然史博物館本館)



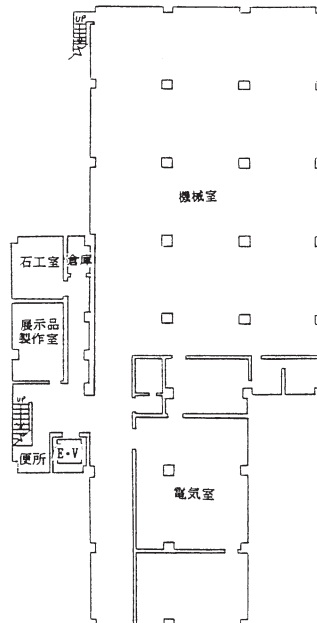
2階



3階

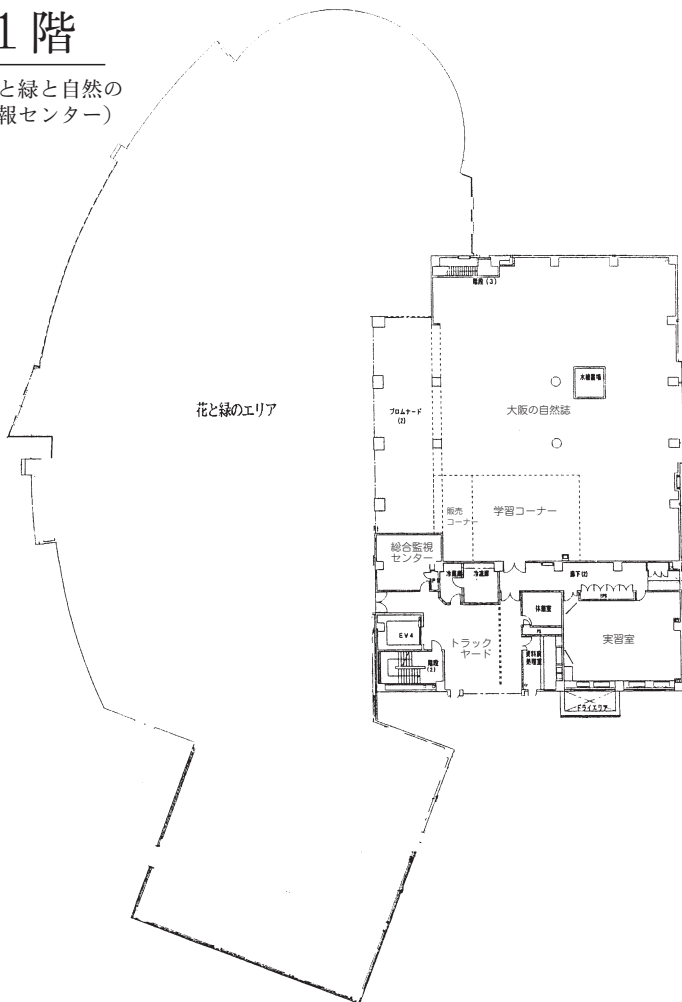


地下

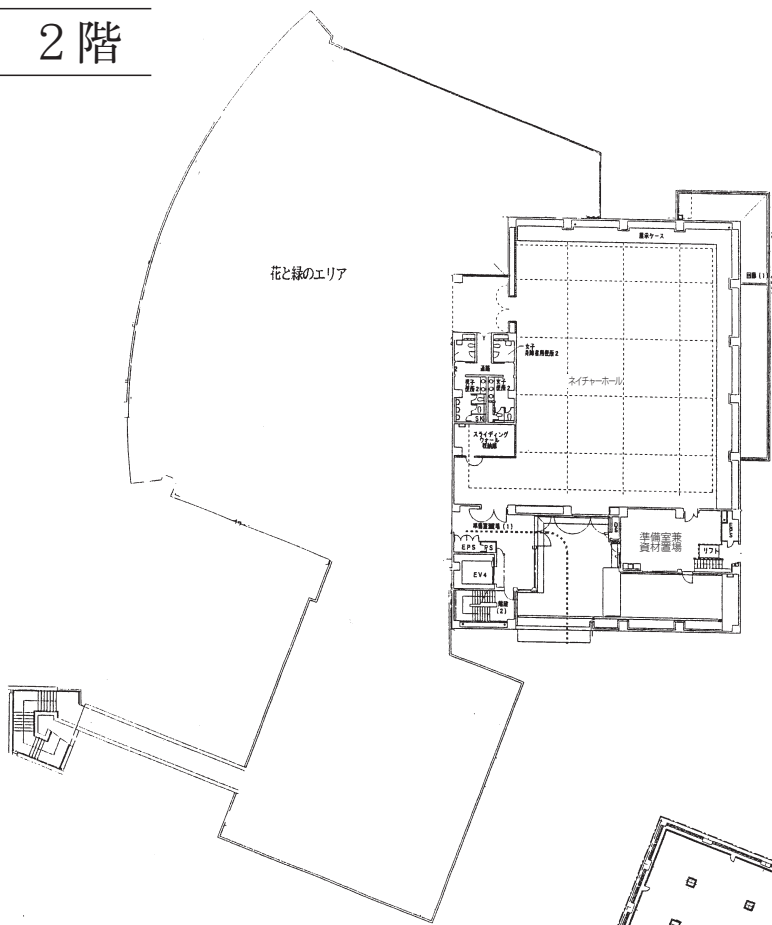


1階

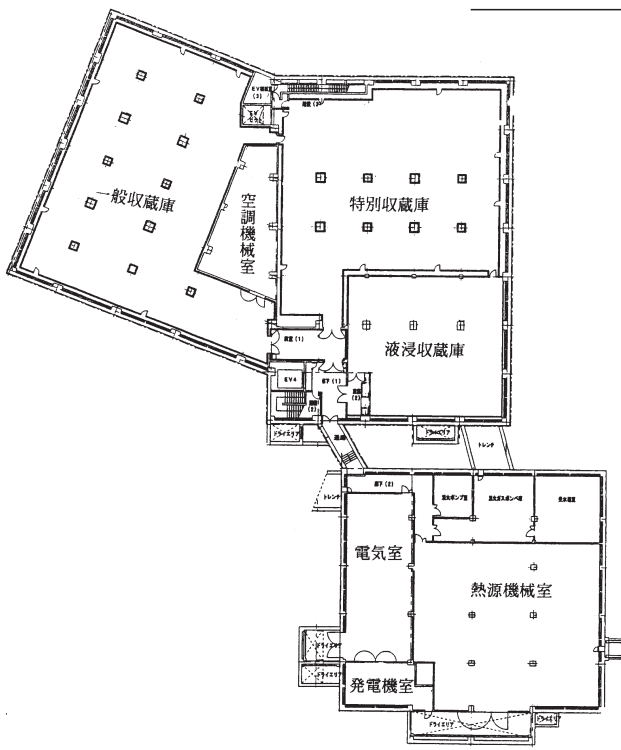
(花と緑と自然の
情報センター)



2階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1 条例 39
最近改正 平17. 9. 22 条例109

(設置)

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

(目的)

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他必要な事業

(休館日)

第4条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第16条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第5条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。

この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第5条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第5条第2項の規定により読み替えられた第4条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第6条 博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物又は附属設備を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第6条の許可を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(入館の制限)

第9条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者

(5) その他管理上支障があると認める者

(観覧料)

第10条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

(使用料)

第11条 施設の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会が定める額の使用料を納付しなければならない。

- (1) 特別展示室 32,000円
- (2) 講堂 17,000円

(附属設備の使用)

第12条 使用者は、教育委員会が定める使用料を納付して附属設備を使用することができる。

(使用料の納付の時期)

第13条 使用料は、前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、後納することができる。

(観覧料等の減免)

第14条 教育委員会は公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料又は使用料を減免することができる。

(観覧料等の還付)

第15条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

(管理の代行)

第16条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）

であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第17条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会の定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会が定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第18条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの
- (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの
 - ア 第1号に該当する者
 - イ 禁錮禁以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
 - ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第19条 教育委員会は、第17条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第20条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第

244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第21条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び附属設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第22条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則 (昭和49年4月2日施行、告示第120号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (昭和51年4月1日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和55年11月27日条例第48号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年4月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和61年4月1日条例第50号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日条例第58号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年3月16日条例第40号)

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日条例第62号、

平成13年4月27日施行、告示第491号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (平成17年9月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第343号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に6条を加える改正規定(第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

○ 自然史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教)規則第6号

大阪市立自然史博物館規則(昭和49年大阪市教育委員会規則第12号)を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館条例施行規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料)

第2条 条例第10条第2項の観覧料は、1人1回につき、次のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第10条第3項の観覧料は、その都度教育長が定める額とする。

(使用料)

第3条 条例第11条の使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第12条の使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減額又は免除)

第4条 条例第14条の規定による観覧料又は使用料の減額又は免除は、教育長が行う。

2 観覧料又は使用料の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

- ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割
- イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
- ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 大阪市立自然史博物館(以下「博物館」という。)の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料又は使用料を減額又は免除する。

(観覧料等の減免の申請)

第5条 前条第2項第1号及び第3号の規定により観覧料

又は使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書にその理由を記載してこれを教育長に提出しなければならない。

(観覧料等の還付)

第6条 条例第15条ただし書の規定による観覧料又は使用料の還付は、教育長が行う。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、既納の観覧料又は使用料の全部又は一部を還付する。

(1) 災害その他入館者又は博物館の施設の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により、常設展示場又は特別展示室に入場し、又は施設を使用することができなくなったとき

(2) その他教育長が特別の事由があると認めるとき

(観覧料等の還付の申請)

第7条 前条の規定により既納の観覧料又は使用料の全部又は一部の還付を受けようとする者は、所定の申請書にその理由を記載してこれを教育長に提出しなければならない。

(指定申請の方法)

第8条 条例第17条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3) 条例第17条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これら

に相当する書類）

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第18条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 条例第4条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

(資料の提出の要求等)

第9条 教育委員会は、条例第19条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

(事業報告書の記載事項等)

第10条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

(1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先

(2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること

(3) 条例第21条各号に掲げる業務の実施状況

(4) 博物館の利用者数その他の利用状況

(5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

(損害賠償等)

第11条 使用者又は入館者が建物、附属設備又は展示品を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(施行の細目)

第12条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

別表第1（第3条関係）

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備 考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後4時30分までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。（別表第2において同じ。）

別表第2（第3条関係）

区 分	使 用 料			
	午 前	午 後	全 日	
特別展示室	冷房設備		16,000円	
	暖房設備		16,000円	
講 堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式 午前、午後各1回につき		1,800円
	マイク	1式 午前、午後各1回につき		500円
	ワイヤレスマイク	1式 午前、午後各1回につき		1,100円
	テープレコーダー	1台 午前、午後各1回につき		900円
	スライド映写機（スクリーン付）	1台 午前、午後各1回につき		1,300円
	16ミリ映写機（スクリーン付）	1台 午前、午後各1回につき		4,200円
	ビデオ装置	1式 午前、午後各1回につき		2,200円
	液晶プロジェクター（スクリーン付）	1台 午前、午後各1回につき		1,900円

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平18. 4. 1

(目的)

第1条 この要綱は大阪市立自然史博物館規則第5条(平成18年大阪市教育委員会規則第6号。以下「規則」という。)の規定による観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(学校園等の教職員等の観覧料)

第2条 保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校(以下「学校園等」という。)又は養護学校の保育士又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して大阪市立自然史博物館(以下「博物館」という。)に入場しようとするときは、当該保育士又は教職員の観覧料を免除する。

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会(以下「教育委員会」という。)にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入館の目的
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料)

第3条 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の職員又は介護者が、入所者を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、介護者(ただし、入所者1名につき1名に限る。)及び入所者の観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法(昭和25年法律第144号)
- (2) 児童福祉法(昭和22年法律第164号)
- (3) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)
- (4) 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)
- (5) 精神保健及び精神障害福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)
- (6) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、

観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
 - (2) 社会福祉施設の名称及び代表者氏名
 - (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
 - (4) 入館者の予定人員
 - (5) 引率責任者の氏名
 - (6) その他教育委員会が必要と認める事項
- 3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及びその介護者1名の観覧料を免除する。
- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
 - (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
 - (3) 知的障害者福祉法施行令(昭和35年政令103号)の規定による判定書
 - (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)の規定による被爆者健康手帳
 - (5) 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)の規定による戦傷病者手帳
- (大阪市内在住者の観覧料の特例)

第4条 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

(視察等の観覧料)

第5条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
 - (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
 - (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき
- 2 前項の観覧料の免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。
- (1) 入館の日時
 - (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
 - (3) 視察の目的
 - (4) 入館者の予定人員
 - (5) 視察する者の代表者の氏名

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

第6条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則第3条に規定する特別展示室、講堂及び附属設備の使用料を減額又は免除することがある。

(1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき

(2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき

(3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき

(4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

(1) 使用の日時

(2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）

(3) 使用の目的

(4) 使用する施設及び附属設備

(5) 入館者の予定人員

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

附 則

この改正要綱は、平成18年4月1日から施行する。

様式 1

決 裁 欄	課 長	担当係長	係 員
	課 長	係 長	係 員

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会
教 育 長 様

申請者 所在地
名 称
代表者
電 話

下記により観覧いたしますので、観覧量を免除して下さるよう申請します。
記

観覧日時	平成 年 月 日 () 時 分～	
観 覧 人 員	児童・生徒 その他	
	引率者 介護者	
	合 計	
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第14条及び同規則第4条による。	

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 団体名
代表者名
住 所
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 (曜日)	使用 時間	午前 時 分～午前 時 分 午後
使用目的			参加人員 人
種 別	数 量		
	午 前	午 後	全 日
付 属 設 備	講 堂		
	冷 房 設 備		
	暖 房 設 備		
	拡 声 装 置		
	マ イ ク		
	ワイヤレスマイク		
	スライド映写機		
	16ミリ映写機		
	ビデオ装置		
	液晶プロジェクター		

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間
午前…午前9時30分～正午
午後…午後1時～午後4時30分
全日…午前9時30分～午後4時30分
(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます。)

決 裁 欄	課 長	担当係長	係 員
	課 長	係 長	係 員

○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館
制定 平成7年2月1日
改訂 平成13年3月10日

(目 的)

- 1 この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づき、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入の規制)

- 2 受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）又は秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5以内で、当館が指定する。
- 3 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
- 4 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。
- 5 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

(受入れの願書)

- 6 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受けけない。

(受入れの諾否)

- 7 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

- 8 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。
※各年度における実習日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51. 12.
改 正 昭54. 7.
最近改正 昭62. 12.

(目的)

1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。
ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

(1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。

(2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。

(3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。

(4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。

(5) その他詳細については、当館と打ち合せすること。

(その他)

6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学芸員
日			

写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館 様

所 在 地

会社・団体名

代表者氏名印

(担当者:)

(電話番号:)

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いいたします。

日 時	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	
(テレビの場合)	
放映日時	
番組名	
タイトル	
(写真の場合)	
掲載紙名	
記事タイトル	
著者名	
発行者名	
発行年月日	

写真・テレビ撮影等許可書

様

大阪市立自然史博物館
館 長

平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。

日 時	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

(許可条件)

- (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。
- (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定 平成12年4月1日

第1条 (目 的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条 (定 義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条 (期 間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条 (手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用し

ようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式3）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。（外来研究員については前年度2月15日）。

第5条 (許 諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条 (経 費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条 (報 告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条 (成 果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条 (変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条 (資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式1

No. _____

**大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票**

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所	電 話 連 絡 先
担当学芸員名			

決 裁	館 長	副 館 長	庶務課長	学芸課長	副 参 事	係 員	学 芸 員

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

(本人)

住 所 _____

電 話 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

(所属機関の長または指導教官)

所 属 機 関 _____

所 在 地 _____

電 話 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研 究 者	所属部局 (教室)、職名 (学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2006

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

Issued: March 31, 2008.